地質学雑誌　第110巻　第9号（通巻1308号）付録　昭和27年6月10日第三種郵便物認可　平成16年9月15日発行（毎月1回15日発行）

# 日本地質学会 *News*

Vol.7 No.9 September 2004

THE GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN 1893

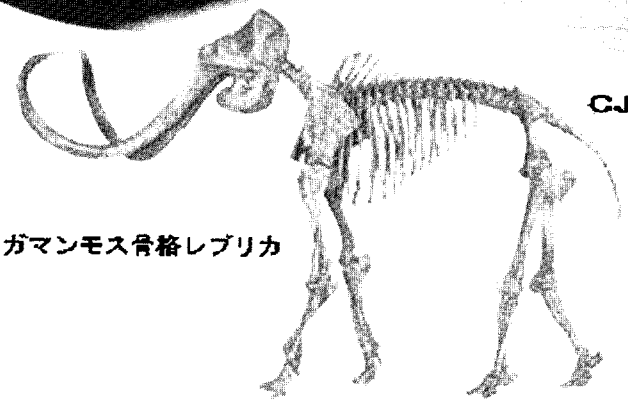
# 鉱物・古生物から分析用標準試料まで

## ゼネラルサイエンスは幅広くご要望にお応え出来ます。

**地球化学標準試料（GSJ）お取り扱いのお知らせ**
旧地質調査所の地球化学標準試料（GSJ）全種類を弊社で委託販売する事になりました。

**中国砂漠系標準試料(黄砂・黄土):販売のお知らせ**
世界初の黄砂・黄土の元素分析標準試料です。
大気ｴｱﾛｿﾞﾙ・堆積土壌中の組成分析に使用出来ます。

CJ-1,2（２本組）



ケナガマンモス骨格レプリカ

☆　弊社では、学校教育用・研究用及び博物館展示用の実物化石標本・模型、動物骨格標本・模型、恐竜骨格標本・模型、化石人類模型等世界中の標本・模型を取扱っております。
アメリカ自然史博物館・大英自然史博物館・ケニア国立博物館・国立南オーストラリア博物館等で出しておりますオフィシャルの模型も取扱っております。ご興味がございましたら是非ご一報下さい。弊社よりご要望のカタログをご送付させていただきます。尚、納入実績としましては国立科学博物館を初めとして、全国の博物館・大学に納入させていただいております。

☆　分析用標準試料については、上記標準試料の他に、NIST、CANMET、SABSC(MINTEK)、BCR 等の鉱物・鉱石標準試料をはじめ、いろいろな標準試料を多数取り揃えております。

**お問合わせ・資料ご請求は下記までお願い致します。**


株式会社　ゼネラルサイエンス　コーポレーション
〒107-0052
東京都港区赤坂 3-11-14　赤坂ﾍﾞﾙｺﾞﾋﾞﾙ 802
TEL.03(3583)0731　FAX.03(3584)6247
e-mail:gsc@shibayama.co.jp　http://www.shibayama.co.jp

# 日本地質学会*News*

Vol.7 No.9　September 2004

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル ６F
**編集委員長　大友幸子**
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp


## *Contents*


**2005年度新役員紹介** ……2

**国際惑星地球年について** ……3

案内 ……4
平成16年度第２回建設技術者のための地質学教養セミナー「地球の過去・現在・未来」/第19回「大学と科学」公開シンポジウム　ここまで進んだ日米の都市地震防災/「最新のリモートセンシング技術を応用した防災地質」講習会開催のご案内/海洋調査技術学会第16回研究成果発表会/シンポジウム「人為的な沿岸環境擾乱の指標としての生物」のお知らせ

公募 ……5
愛媛大学理学部生物地球圏科学科

各賞・研究助成 ……5
核燃料サイクル開発機構平成17年度「先行基礎工学研究」についてのご案内

地質学用語集特別割引販売のお知らせ ……6

紹介 ……7
地学ガイドシリーズ26　福岡県　地学のガイド-福岡県の地質とそのおいたち　唐木田芳文（岡田博有）/土壌汚染リスクと不動産評価の実務　川口有一郎ほか　著（岩松　暉）/お知らせ

博物館だより ……8
茅野市八ヶ岳総合博物館・平成16年度収蔵資料展

学協会・研究会報告 ……9
第10回国際フィッショントラック会議参加報告（長谷部徳子）/第19回HKTワークショップ報告（吉田　勝ほか）

お知らせ ……12
デルタ国際シンポのお知らせ：IGCP-475 モンスーンアジア太平洋地域のデルタの第２回年会/第17回国際堆積学会議（17th International Sedimentological Congress）開催のお知らせ

新コーナー：ジオロジストのための法律メモ ……13

取り扱い地質図一覧 ……14

**速報：2004年９月１日　浅間山噴火**（星住英夫他） ……15

地学教育のページ ……16
高校地学教師の一つのイメージ（磯﨑行雄）

院生コーナー ……17
Ocean Drilling Program（ODP）Leg 204 Post Cruise Meeting　参加報告（戸丸　仁）

**院生（研究生）の方へ** ……19
**平成17年度（2005年度）院生割引会費の受付開始**

追悼　畏友　関根良弘君をおくる（野沢　保） ……20

**「名簿アンケート：会員名簿訂正・変更カード」** ……21
**記載について**

学会記事　2004年度第14回・15回（臨時）理事会議事録 ……22

巻末　**預金口座振替依頼書**



広告取扱：株式会社廣業社
〒104－0061 東京都中央区銀座8－2－9　電話 03－3571－0997



印刷・製本：日本印刷株式会社


### 2005年度会費口座引き落としのお知らせ

振替予定日：**12月24日（金）**

新たに会費口座引き落としをご希望の方は，巻末の振替依頼書を，**11月15日（月）**までにお送り下さい．

### 表紙紹介

**「2004年浅間山噴火」**（2004年９月３日撮影）

写真・コメント提供：**アジア航測（株）**

**写真１（表表紙）**　浅間山山頂付近　噴煙は北東方向にたなびいている．釜山火口内は噴煙で満たされており内部は見ることができない．火口の周囲に点在する白っぽいものは噴石と思われる．このスケールでは分かりにくいが明瞭なインパクトクレーターも多数確認できる．黒あるいは茶褐色に変色している部分は，火災の跡と思われる．

**写真２　前掛山西斜面付近**　前掛山の西側斜面には従来から放射状のガリーが発達している．点在する楕円形の茶色の窪地は，噴石の衝突によって生じたクレーターである．いくつかのものは斜面の最大傾斜方向に鎖状に連なっている．

**写真３　釜山火口南西付近**　急斜面上にはあまりクレーターはみられないが，斜面上におおきな噴石が散在している．この斜面の下部から前掛山の東側斜面にかけても噴石があるが，この付近には今回の噴火前から角礫が散在していた点に注意が必要．

**写真４　釜山火口南東付近**　この方向の斜面およびその下部付近には，大量の噴石が散在している．中央より下側に黒っぽく変色しているのは噴石の熱によって発生した山火事の跡．

このほかにもアジア航測（株）のwebサイトhttp://www.ajiko.co.jp/で写真が紹介されています．

# 2005年度 新役員紹介

新しい理事の方々をご紹介いたします

**会長**
**斎藤　靖二（国立科学博物館）**

地質学における挑戦的で面白い成果を，他分野や世界に発信することなどを通して，より開かれた学会活動の進展を目指したいと思います．学会が我々に何をしてくれるかではなく，我々が学会に何をなし得るかをともに考えていきたい．

**副会長**
**加藤　碩一（産業技術総合研究所）**

地質学会の活動活性化のための法人化，社会へのいわば説明責任を果たすべき広報・啓蒙活動，関連分野学協会等との一層の連携，国際的な地質情報戦略への貢献など課題は多々あり，全会員のみなさまと一層の協力を図り一歩一歩進めたいと思います．

**副会長**
**木村　学（東京大学）**

「地球を知る」「地球を守る」「地球と歩む」を合い言葉とし，国際的にも国内的にも日本地質学会が名誉ある地位を占められるよう，会員の皆様と共に，微力ながら尽力したいと思います．

**狩野　謙一（静岡大学）**

野外データを主体とした構造地質学を展開してきました．今後も野外中心主義で行きます．また，地質学雑誌の発展にも寄与していきたいと存じます．

**公文富士夫（信州大学）**

普及・教育の担当理事としてやってきましたが，次の期ではホームページを活用して，各種の地質学情報を会員に利用してもらえるシステムをつくりあげるようにしたい．ご協力をお願いします．

**倉本　真一（海洋研究開発機構）**

研究，教育，社会貢献など本学会の基軸となる活動をカスタマーベースという観点から見直し，機動性の高い学会活動を目指す．国内-国際共同研究・教育活動との連携を図り，本学会のプレゼンスと地位の向上に努める．

**徐　垣（海洋研究開発機構）**

新たな地質学会をよりよいものへ変えるお手伝いをしたいと考えます．学会員の皆様の御協力をよろしくお願いいたします．

**中井　睦美（大東文化大学）**

小中高から専門外の大学まで，学校教育としての地学教育の発展のため努力したいと思っております．

**久田健一郎（筑波大学）**

イタリアIGCに出席の折，飛行機から見たアルプスの山並みの美しさに感激しました.これからの１年半，20世紀に培った学会の知力を21世紀にいかに活かし伸ばすか，この課題に真剣に取り組みたいと思います．

**向山　栄（国際航業（株））**

人口減少・高齢化の中での国土の再整備という，社会の大きな転換期を迎える中で，「社会的に信頼される地質学」のさらなる発展に向け，支部や業界での活動経験を生かして学会活動を推進したいと思います．

**天野　一男（茨城大学）**

JABEEなど国際的に通用する技術者教育の振興，小・中学生や一般市民への地質学の普及を通じて社会の中に新しい地球観を育むこと，革新的な研究の発展などをバックアップできる地質学会のシステムの構築をめざして努力します．

**上砂　正一（明治コンサルタント（株））**

民間から選出されています．会員校正で民間出資員は32%です．地質コンサルタントのスキルアップ．企業に役立つ地質学会を目指します．

**大友　幸子（山形大学）**

１年間理事をしてみて，地質学会の運営がいかに多岐にわたるかわかってきました．地質学会が会員にとってより有益なものになるよう尽力したいと思います．

**高橋　正樹（日本大学）**

社会に開かれた地質学会をめざし，企画出版事業や普及教育事業の更なる発展に努めたいと思います．また，収益事業を軌道に乗せるなど，財政基盤の確立にも努力したいと考えています．さらに，会員数の減少に歯止めを掛けるため，小中学校理科教員会員の新たな獲得などもめざしたいと思います．

**増田富士雄（京都大学）**

2005年９月に開催される京都大学での地質学会を成功させることを第一の目標にしています．また，地質学雑誌に多様で斬新な研究成果が多く掲載され，学会がさらに発展することを望みます．

**宮下　純夫（新潟大学）**

学会の発展のために微力ながら力を出したいと思います．

**渡部　芳夫（産業技術総合研究所）**

地質学会の法人化を迎え，ますます地質科学の社会への貢献と認知が重要な時期になります．ここで必要な研究・教育・社会活動の現場とその受益者の双方の立場を理解するための活動に寄与したいと考えます．

# 国際惑星地球年について

日本学術会議地質学研連から，日本地質学会に対して，国際惑星地球年（2005-2007）について協力依頼がありました．先の32nd IGC（フィレンツェ）においても，説明会合が行われ，各国から期待や協力の声明が発表されました．この国際惑星地球年に対して，日本地質学会としては，積極的に協力していく意向です．会員各位に趣旨と現状を理解していただくために，国際惑星地球年とは何か？国内体制や地質学会としての取り組み等について，以下に解説したいと思います．

日本地質学会国際交流委員会　脇田浩二
日本学術会議地質学研究連絡委員会　高木秀雄

## 国際惑星地球年：
## International Year of Planet Earth 2005-2007

国際地球科学連合IUGSが，ユネスコと共同で提案した．2006年を国際惑星地球年とし，地球上に生活する人類の将来のため，地球科学の知識の重要性が広く認識され，それが適切に利用される契機となることを目標としている．副題は，”社会のための地球科学”（Earth sciences for society）である．活動は前後を含め2005-2007年とする．予算は，IUGS，ユネスコ，オランダ地質調査所，シェル，中国などが支出している．科学プログラムとして地下水・災害・地球と健康・気候・資源・巨大都市・地下深部・海洋・土壌という９つのテーマを最重要課題にあげ，この分野の研究プロジェクトを支援していくとともに，社会普及（Outreach）プログラムとして地球科学の社会への貢献を示していく普及活動を世界各地で実施する．この普及活動の一環として，Geopark, Geositeの設定が検討されている．すでに政府・省庁レベルでの支援が約束されている国は少なくとも13カ国に達するが，日本はまだこれからの段階である．

日本国内の実行委員会の構成は，５月14日の準備会合を経て，６月28日の第１回会合において，以下のように決定された．

会長：大矢　暁
会長代行：佐藤　正，小松正幸
顧問：町田　洋，山中高光，西田篤弘，石田瑞穂，野上道男
副会長：佃　栄吉，波田重熙，田崎和江
委員：各学協会から推薦（地質学会では，脇田・磯﨑が委員），全地連，産総研，JAMSTEC，国土地理院，海洋情報部，IGCP国内委員会，学術会議関連県連委員
事務局長：宮崎光旗（産総研）
事務局員：井内美郎（地質学研連）

実行委員会での主な活動は，以下のようなものである．

1．国連などで日本としてこの活動に積極的に関与することを表明してもらえるように，文科省や政府に働きかける．
2．各学会や複数の学会共同で，国際惑星地球年として何をやるか？検討する．
3．国際惑星地球年としての活動であることを表明し，ロゴを用いる．
4．実行委員を各学会で選出し，６月半ばまでに推薦する．
5．実行委員会と研連が共同で，打ち上げの合同シンポ（９-10月：学術会議場で）を実施し，９つのテーマに即した講演を行う．

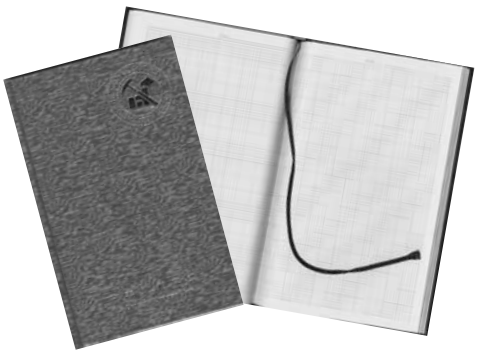
地質学会としての対応の可能性については，以下のように考えている．

1．今年の地質学会年会（千葉大会）から，講演要旨，参加証，巡検案内書等に国際惑星地球年のロゴを用いて，この活動に参加を表明する．
2．合同シンポジウムに講演者を派遣する．
3．来年以降の活動において，学会活動と国際惑星地球年との関わりをどのように持つかを検討する．

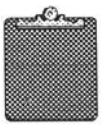
国際惑星地球年は，地質科学の役割を広く社会に認知してもらうための運動であり，その後に続く国際地球物理年とともに，地球科学全体の社会での地位向上を目指している．多くの方々にこの点をご理解いただき，あらゆるレベルでの活動をこの国際惑星地球年に生かしていきたいと思っております．ロゴ等の使用は，推奨されていますので，ご希望の方は地質学会事務局までご連絡ください．なお，国際惑星地球年のURLは，www.esfs.orgです．日本語版の案内もpdfファイルでダウンロードできますので，お訪ねください．

planetearth®
Earth Sciences for Society
2005 – 2007

## 待望！！
## 学会オリジナルフィールドノートが出来ました．



サイズ：12×19cm．ハードカバー，ビニールレザー加工，金箔押し．
カラー：チョコレートブラウン．
用紙は野外調査に最適な，雨に濡れても丈夫な高級紙・レインガードを使用しています．是非ご活用下さい．
ご購入を希望の方は，学会事務局まで．　会員頒価　500円／冊．



## ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会よりの催し物のご案内を掲載します．

### 平成16年度第２回　建設技術者のための地質学教養セミナー「地球の過去・現在・未来」

主　　催：断層研究資料センター
後　　援：日本応用地質学会関西支部・関西地質調査業協会・その他（予定）

本年度から，下記のように，建設技術者のために必要な地質学の基礎として，年２回の地質学教養セミナーを実施いたします．これは，それぞれの専門領域をこえた最新の情報を提供し，広い視野から地球という自然を考える機会を設け，いわばシニア向きの教養講座（セミナー）としての位置づけを目指しております．

開催日：**平成16年11月12日（金）**
13：30～17：00
会　場：建設交流館８Ｆ　グリーンホール
（大阪市西区立売堀）
TEL：06-6543-2551
定　　員：200名
会員参加費：3,000円（資料代を含む）．
申し込み：事前の申込は不要です．参加費は当日会場でお支払い下さい．

プログラム（未定）
１．大野照文（京都大学総合博物館　教授）
２．竹内　章（富山大学大学院　教授）

なお，当センターのセミナーは技術士CPD（継続教育）に履修実績として申請をすることができます．当日受付で申し出て下さい．

連絡先：断層研究資料センター
電話・FAX　06-6532-6218
E-mail: fred_c@orange.livedoor.com

### 第19回「大学と科学」公開シンポジウム　ここまで進んだ日米の都市地震防災

日　程　**2004年11月２日（火）～３日（水）**
会　場　仙台市情報産業プラザ
参加費　無料

第１日目：
開会挨拶　佐藤忠信（京都大学防災研究所）
特定領域研究代表挨拶　亀田弘行（防災科学技術研究所）

午前の部
司会　佐藤忠信（京都大学防災研究所）
A．強振動予測と地盤の地震危険度評価
１）都市域を襲う破壊的地震の際に，どのような揺れがあるのかの予測法
岩田知孝（京都大学防災研究所）
２）地盤の液状化の予測法を地中構築物の耐震性を向上させる方法
濱田政則（早稲田大学）
B．構造物の地震応答性能の向上
３）建物の地震時における性能として求められるものは何か，さらにその性能を満たす設計の方法
壁谷沢寿海（京都大学地震研究所）
４）構造物の耐震性を高めるための最近の技術
中島正愛（京都大学防災研究所）

午後の部
司会　中島正愛（京都大学防災研究所）
C．都市施設の高度耐震性技術の開発
５）都市施設の耐震性を向上させるためにどんな先端技術及び高機能材料が利用されているか．
川島一彦（東京工業大学）
６）構造物の健康管理と損傷度の検出法
鈴木祥之（京都大学防災研究所）

パネルディスカッション
「耐震技術の現状と日米共同研究として何が新しくわかったのか」
ご連絡・お問い合わせ
第19回「大学と科学」公開シンポジウム「ここまで進んだ日米の都市地震防災」事務局
〒164-0003　東京都中野区東中野4-27-37
（株）アドスリー内　担当：田中高洋
電話03-5925-2840　ＦＡＸ03-5825-2913
e-mail: info@adthree.com

### 「最新のリモートセンシング技術を応用した防災地質」講習会開催のご案内

日時：**平成16年10月18日（月）**
場所：中央大学駿河台記念館（東京都千代田区神田駿河台3-11-5）
主催：日本応用地質学会・社団法人　日本リモートセンシング学会
協賛（予定）：（社）土木学会，（社）地盤工学会，（社）物理探査学会，日本地質学会，（社）全国地質調査業連合会
受講料：6,000円（テキスト代込み）
募集締切：**10月12日まで（募集人員：150名）**
CPDH：CPDH＝6.5時間を設定

プログラム
＜最新のリモートセンシング技術＞
９：35～10：20　リモートセンシングの地盤（斜面）防災分野での貢献
東京大学　六川　修一
10：20～11：05　高分解能衛星画像技術と地盤防災分野への応用
NTTデータ　筒井　健
11：05～11：50　合成開口レーダによる地表面変動モニタ技術
イメージワン　葛岡成樹
13：00～14：00　特別講演：日本の人工衛星による地球観測とデータ利用の展望
（財）資源・環境観測解析センター
丸山裕一
＜防災技術への応用例＞
14：00～14：45　レーザースキャナー技術を用いた斜面崩壊危険度インデックス
京都大学　千木良　雅弘
14：45～15：20　火山防災調査におけるリモセン技術の利活用
国際航業　中筋章人
15：20～15：35　休憩
15：35～16：20　地表変位の観測と地震防災等への応用
国土地理院　熊木洋太
16：20～16：55　土石流災害の計測
アジア航測　小川紀一朗
16：55～17：00　閉会のあいさつ

申込方法：申込はできるだけジオ・スクリーンネット（GSネット）にてお願いします．GSネットは「土質・地質に係わる技術者」のための関連情報を集中管理・提供をおこなうことを目的に構築されたホームページです．利用登録（無料）をおこなうと画面上から直接参加申し込みをすることができます．また，登録時に自動付与される“ID”“パスワード”により「自己学習記録」を自ら管理できるシステムをご利用いただけます．
http://geo-schooling.jp/

GSネットが利用できない場合は，応用地質学会事務職までFAXにてお願いします．なお，参会費は，郵便局備え付けの振り込み取扱い票を使用し，「講習会受講料」6,000円と明記の上，郵便振り換えでご送金下さい．
郵便振替口座番号：
00190-7-8684　加入者名：日本応用地質学会

申込先：〒101-0062　東京都千代田区神田駿河台2-3-14　お茶ノ水桜井ビル4F
日本応用地質学会事務局
TEL：03-3259-8232　FAX：03-3259-8233

### 海洋調査技術学会 第16回研究成果発表会

期間　**2004年11月18日（木）～19日（金）**
場所　海上保安庁海洋情報部7階大会議室
〒104-0045　東京都中央区築地5-3-1
内容　海洋調査に関する研究成果発表
最新の海洋調査技術についての講演
機器展示　その他

お問い合わせ

海洋調査技術学会　事務局
〒104-0045　東京都中央区築地5-3-1
（財）日本水路協会内
電話・FAX　03-3545-6255

## シンポジウム「人為的な沿岸環境擾乱の指標としての生物」のお知らせ

－過去の環境変動に対する古生物の応答に関する研究からの提言－
日本学術会議古生物学研究連絡委員会，同地質学研究連絡委員会，同第四紀学専門委員会共同主催
（本シンポジウムは国連による国際惑星地球年（IYPE）活動に協賛しています）

コンビーナー：秋元和實（熊本大）・松岡數充（長崎大）・大木公彦（鹿児島大）・西　弘嗣（北大）・北里　洋（古生物研連）・井内美郎（地質研連）・齋藤文紀（第四紀専門委）
日時：**平成16年10月12日（火）**
10：00～17：00
場所：日本学術会議大会議室

プログラム：
小松　正幸（愛媛大学長；学術会議会員）開催の趣旨（地球科学は社会生活と深く関わっている）
Ⅰ．沿岸生態系を取り巻く海洋環境
杉本　隆成（東海大学海洋研究所）沿岸海洋環境の長期変動と生態系のレジームシフト
木暮　一啓（東京大学海洋研究所）沿岸環境に於ける微生物の役割
齋藤　文紀（産総研・地質情報）沿岸環境における底質と堆積作用

II．Ecosysytemと海洋環境
－現生と化石からのアプローチ－
風呂田利夫（東邦大学理学部）東京湾の環境汚染と生物の応答
北里　洋（海洋研究開発機構）嫌気環境に適応し，進化する原生生物
堤　裕昭（熊本県立大学環境共生学部）沿岸閉鎖性海域における有機汚泥の堆積による嫌気環境の形成と生物の反応

III．Ecosysytemから復元される近過去の陸域と海洋の環境
－有明海・八代海の研究の現状と課題－
松岡　數充（長崎大学水産学部）渦鞭毛藻のシストからみた有明海の環境変化
秋元　和實（熊本大学沿岸環境センター）有明海の環境変動と底生有孔虫の応答
大木　公彦（鹿児島大学総合博物館）八代海の水銀汚染に底生有孔虫はどう反応したか？
大塚　泰介（滋賀県立琵琶湖博物館）一次生産者としての珪藻と環境汚染

IV．総合討論
－微小生物の研究に期待するもの－
指名討論：滝川　清（熊本大学沿岸環境センター），農水省，環境省などの行政担当官　ほか

## 公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

## 愛媛大学理学部生物地球圏科学科・地球科学系教員公募

1．職名および人員：教授又は助教授　1名
2．専門分野：情報地球科学（コンピュータによる情報処理の手法を用いて，地震災害，火山災害，物理探査，環境変動予測，リモートセンシングなどの分野で研究実績のある方）
3．担当授業：上記分野に関連した学部・大学院の講義，実験，実習および共通教育の授業
4．着任希望時期：平成17年4月1日
5．応募締切：**平成16年10月29日（金）必着**
6．提出書類：
　1）履歴書
　2）研究業績目録（査読論文とそれ以外に分けること）
　3）主要な原著論文別刷（コピー可）5編
　4）これまでの研究概要（2000字程度）
　5）今後の研究・教育の計画および抱負（2000字程度）
　6）参考意見を伺える方2名の氏名および連絡先
注意：応募書類には，教授希望または，助教授希望を明記してください．
7．書類送付先：
〒790-8577　愛媛県松山市文京町2－5
愛媛大学理学部人事委員会
委員長　柳澤康信
8．問い合わせ先：
〒790-8577　愛媛県松山市文京町2－5
愛媛大学理学部生物地球圏科学科
地球科学系主任　川嵜智佑
電話　089-927-9646
Fax　089-927-9640（事務室）
E-mail　toshkawa@sci.ehime-u.ac.jp
注）本学科は平成17年4月1日より地球科学科と生物学科に改組され，本公募教員は前者に属する予定です．また，本学科では愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター（GRC），および沿岸環境科学研究センター（CMES）と連携して教育・研究にあたっています．

## 各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，執行委員会までお申し込み下さい．

## 核燃料サイクル開発機構 平成17年度「先行基礎工学研究」についてのご案内

概要
核燃料サイクル開発機構が取り組む研究開発プロジェクトに先行する基礎工学研究に関する研究協力テーマを核燃料サイクル開発機構が設定し，大学等の研究者から研究目的を達成する上で必要な研究協力課題を募集します．
募集研究協力課題件数
8件程度
研究分野
高速増殖炉開発及びそれに関連する核燃料サイクル技術開発，高レベル放射性廃棄物処分研究開発，放射線安全研究分野等で核燃料サイクル開発機構が取り組む研究開発プロジェクトに先行する基礎工学研究
協力形態
共同研究，客員研究員等
研究予算
1研究協力課題あたり，年間最大で300万円以下
応募資格
研究実施の代表者は，国内の大学等に所属する教官または同等の研究経歴をもつ者（ただし，既に核燃料サイクル開発機構の研究協力制度に研究実施の代表者として応募し採用されている者を除く．）
研究開始
2005年4月1日（予定：但し，契約締結後）
研究期間
1事業年度とします．ただし，毎年度に所要の評価を行い，研究期間の更新は，最大2回まで可能とします．
審査方法
書類審査及び口頭審査を行います．
応募締切　**2004年11月15日（月）必着**
その他
平成17年度には核燃料サイクル開発機構は日本原子力研究所と統合する予定であり，平成17年度以降の研究については，変更の可能性があります．
問い合せ先　核燃料サイクル開発機構
技術展開部　技術協力課
亀田，田沼，石沢
電話　029-282-1122
（内線41111，41126，41127）
FAX　029-282-7980
E-mail　daigaku@jnc.go.jp
サイクル機構ホームページ
（http://www.jnc.go.jp/）

**日本地質学会会員の皆様へ　　特別割引販売のお知らせ**

# 地質学用語集 ―和英・英和―

## 日本地質学会　編

定価4,200円（税込）・B6判・456頁・（ISBN4-320-04643-9）

会員特別割引価格　3,700円（税・送料込）

『地質用語集』は，地質学および地質学と直接的な関連科学技術分野における学術用語の日本語と英語ならびにその対訳関係を，各分野の専門家の協力のもとに編集・収録.「和英の部」約8,900語,「英和の部」約8,500語を主体とし，英語用語の「略語の部」約110語を添えた．いずれの分野でも，日本語・英語ともに同義語を有するものが多い．それらの同義関係を示し，かつ，できる限り，推奨語を識別して用語を統一し，利用上の便を図った.

＊日本地質学会会員を対象に，特別割引価格での販売をいたします.

＊手続きは，共立出版に直接扱っていただきますので申込みは，下記用紙（コピーのうえ）をご利用ください.

**日本地質学会**

---

事務手続き代行：共立出版株式会社

［問い合せ先］〒112-8700　東京都文京区小日向4-6-19
共立出版株式会社　営業部　販売課　担当：藤本・矢島・櫻井　　TEL 03-3947-2513

［お支払方法］書籍（請求書・振替用紙同封）到着後，ご送金ください.

［お申込み法］ＦＡＸまたは郵便にて共立出版へお申込みください.

---

**申込み書** ⇒ **共立出版株式会社 営業部 販売課 行　　FAX ０３－３９４７－２５３９**

| | | |
|---|---|---|
| **地質学用語集** | 会員特別割引価格　3,700円（税・送料込） | 注文　　冊 |

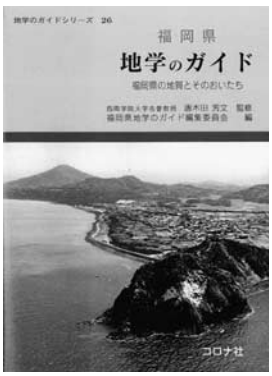
| | | | |
|---|---|---|---|
| ご　芳　名 | | | |
| 送　付　先<br>□勤務先<br>□ご自宅 | 〒 | | |
| ＴＥＬ | | ＦＡＸ | |
| Ｅ－ｍａｉｌ | | | |
| 通　信　欄 | □公費等の場合は，請求先・必要書類をご記入ください. | | |

＊この申込み用紙は書店・生協ではご利用（注文）できませんのでご注意ください.

## 紹　介

**地学のガイドシリーズ　26**
**福岡県地学のガイド**
**ー福岡県の地質とそのおいたちー**

**唐木田芳文　監修**
**福岡県地学のガイド編集委員会**
**編**




〈コラナ社　2004年７月16日初版第１刷発行，B6版，Ⅳ237ページ，定価2500円＋税，ISBN4-339-07526-4〉

コラナ社が刊行を続けている地域の地質自然環境紹介の26番目の出版物として「福岡県地学のガイド」が発行された．このような地域の地質情報やその分かり易い解説こそ地質学の発展と社会的貢献の基本になるという視点からこの新刊本の紹介をしたい．

本書は北部九州に広く分布する花こう岩類の研究で著明な西南学院大学名誉教授唐木田芳文氏の監修のもとで，主として福岡県下に在住する小・中・高校・大学ならびに博物館，市や県の行政機関関係者や「福岡石の会」会員など30名の執筆によるものである．とくに，日々児童・生徒に接して彼らへの影響力の高い小・中・高の先生方の執筆を評価したい．

本書は先ず唐木田氏による「Ⅰ．福岡県のおいたち」に関する22ページに及ぶ解説で始まる．その内容は日本列島全体の地質発達史を理解するうえでも貴重な記述である．続いて「Ⅱ．福岡県地学めぐり」，「Ⅲ．福岡県における地学の話題」の内容となっている．第Ⅱ章では北九州地区，筑豊地区，英彦山地区，福岡地区，筑後地区ごとに分けて，みどころ，交通，地図，注意，引用・参考文献を掲げて必見の地質，化石，鉱物，地形，ときには植物相などの解説をしている．第Ⅲ章では，福岡県の地質特性や最近話題になっている項目を挙げて，その見学の仕方や意義を解説している．例えば，天然記念物，洞くつ，鉱物，陶土，石炭三題（でき方，露頭，炭鉱災害），珪化木，活断層，魚類化石の発見，脇野亜層群の淡水魚類化石，大型脊つい動物化石，福岡市市街地の第四紀層，ビルをめぐって地学見学を，地学に関する博物館，などの項目が扱われており，いずれも興味深い記述になっている．

とくに，福岡と言えば炭田，今，それがどうなっているのか全国の人々の関心をひくところであろう．また大都市直下の地質資料は入手しにくいと思われるので，「福岡市市街地の第四紀層」は利用価値が高く，貴重である．さらに，北九州市と福岡市におけるビル壁面の地質環境も面白い．これはロンドンのビル地質巡検，例えば“London Illustrated Geological Walks”（by E. Robinson,1985）のように，日本でもその有効性が示唆されている．以上のように，本書には地域の地質学の見方や話題，要地に近づきやすくする工夫がみられる．

しかし，改善してほしい点もある．ここでは大きく三つの問題点を取り上げたい．その一つは，本書の読者対象の問題であり，用語の問題でもある．「まえがき」にも述べられているように本書は平易な文章でわかりやすく記述して，初心者や中学・高校生にも親しみやすい案内書を目指している．「です」，「ます」調の文体は確かに本書を近づき易くしている，ところが，本書の内容は項目によって極めて難しく（例えば，「１．福岡県のおいたち」），高度な地質学を学んだ者こそ利用度が大きいように感じられる．その理由は使用している学術用語に難しいものが多いからである．限られた紙数のなかでの説明が困難であれば，適当な解説書を紹介して欲しい．それこそ，日本地質学会が野外地質学を広く社会にアピールしようとして刊行を始めた「フィールドジオロジー入門」シリーズなどは最適であろう．

第２点は，すべての露頭や風景の写真が小さすぎることである．そのうえ暗くて画面の状況がよくわからないものさえある．

第３点は，これからの野外観察のガイドには必ず環境保全の考え方に立って環境への配慮を促す注意事項をわかりやすい形で記して欲しいことである．本書にも所によっては［注意］を項目を設けて（例，英彦山地区，「犬ヶ岳・求菩提山周辺の火山岩類」），自然と文化遺産を壊さないようにという注意書きがあるが，これとは別にガイド本全体の注意事項としての扱いが重要である．

このような改善して欲しい点はあるが，本書にはこれまでのこの種のガイドには無かった新しい視点に基づく地域地質の案内書であり，本書への関心が高まるよう願ってやまない．

**（岡田博有）**

**土壌汚染リスクと**
**不動産評価の実務**

**川口有一郎・和田信彦**
**廣田祐二・大岡　健三**
**本間　勝　著**

〈株式会社プログレス，2004年８月25日初版１刷発行，A5判，384p.
ISBN4-901431-27-7，定価3,800円＋税〉

近年，地質汚染が社会問題化している．東京都が汚染土地を和解金85億円で買い戻した事件など記憶に新しい．マイホームを購入する時にも土壌汚染が気になる．ISO14000シリーズにも土壌・地下水汚染の評価が加えられたという．これに基づき企業の環境格付けも行われるようになってきた．こうした背景もあって，遅まきながら2002年５月29日，土壌汚染対策法（土対法）が公布された．早速汚染ビジネスが登場，折からの公共事業縮減と相俟って，ゼネコンや地質コンサルタントの多くがターゲットにし始めた．中には環境地質学的視点の全くないかなりいかがわしいものまで群がっている．この混沌を整理し，キチンとした科学に基づく調査と評価・汚染修復対策が求められている．そうでなければ安心して生涯の買い物である土地を購入できない．

こうした時，本書が刊行されたのは誠に時宜を得ている．汚染ビジネスブームに便乗した際物と違う本格的な書物と言って良い．本書の著者らは，ファイナンス研究科教授・地質汚染診断士・不動産鑑定士・保険業務部長・不動産学部講師など，土壌汚染と不動産の調査研究に長年の実績をもった実務者である．本書は次の５章からなる．

１．土壌汚染の診断・浄化費用
２．土壌汚染の法的検討と不動産ビジネスへの影響
３．不動産鑑定評価とその運用の方向性
４．心理的嫌悪感（スティグマ）が及ぼす不動産への被害と法的解釈
５．企業の土壌汚染リスクと環境保険

このうち，われわれ地質家が関心のある第１章が約1/3を占め，一番分量が多い．足尾

鉱毒事件などの歴史から説き起こし，わが国の地質汚染の現状を述べ，さらに汚染機構を科学的に深く解明している．本章を通読してみると，土壌汚染はまさに地質学の一分野であることを具体的な例で知らされる．土対法は何もなかったのに比べれば一歩前進とはいえ，さまざまな不備が指摘されている．これも地質学がこうした地質汚染のような社会が切実に要求している諸問題に真正面から応えてこなかったことの反映でもある．2005年から国際惑星地球年（IYPE）が始まる．その副題には「社会のための地球科学」が掲げられており，研究テーマの９番目に土壌が挙げられるという．わが国の地質学は日本の現実社会と国際的流れからあまりにも遊離してしまったのではなかろうかと恐れる．

汚染状況調査についても，プロ向けのマニュアルではなく，「だれでもできる」を冠した汚染分析や評価の仕方が解説されている．単なる分析法の仕様書と違って，ちょっとしたコツなどが随所に織り込まれ，長年の経験に裏打ちされていることがすぐわかる．これから不動産を買う人は，本書を片手にぜひ自分で概略調査をしたらどうだろうか．専門業者委託の必要性を判断するときにも役立つし，こちらがそうした知識とデータを有していることは，業者の調査姿勢にも必ず好影響を及ぼすからである．

本章の最後には浄化工法とその費用にも触れ，地質環境学からみた不動産評価の問題点を鋭く衝いている．

後段の法的諸問題や不動産評価・環境保険などについては，門外漢の評者には評する資格はないが，ずいぶん勉強になった．土壌汚染地の価値とは，単純化すれば，汚染のない状態の土地の価値から汚染調査・浄化費用と心理的嫌悪感（スティグマ）による減価を差し引いたものである．土地の使用価値に比して諸々の減価が大きいと，その土地は売れずブラウンフィールド（汚染されないまま放置される土地）になってしまい，担保にもならない．したがって，今後の企業活動において環境汚染を出すことはリスクが大きい．これを回避するために環境保険がある．金で解決すればよいとして汚染を助長するかと思っていたが，環境地質学的な調査に基づき厳密に査定するので，保険金が高くなり，結果として抑止力になるという．地質断面図などが多数引用されている法律や経済の本を読んだのは初めてである．環境地質学が今後の地質汚染を抑止し，美しい国土へ修復することに大きく貢献することを期待する．

最後に，本書は土対法を念頭に置いてあるから仕方がないが，農薬・肥料汚染などノンポイント汚染（不特定多数の汚染源）についても触れて欲しかった．農業汚染は，広く薄くではあるが，わが国においても農産物輸出国においても深刻である．今後，そうしたことまで含めた総括書を上梓して欲しい．

国際惑星地球年に当たって，地質家にぜひ読んでもらいたい本として推薦する．

**（岩松　暉）**

### お知らせ

会員の千代田厚史氏が「秩父盆地北東部・郷平橋周辺の地質教材の研究」（H14下中科学研究助成．Ａ４判52頁．）を発行されました．秩父中新統子ノ神層の穿孔貝化石の観察をはじめ郷平橋における地質や古生物の観察実習やその実践などをまとめたものです．

配布方法：無料．240円切手貼付の角形２号封筒に送付先住所を記入して，下記までお申し込み下さい．

〒342-0056　吉川市平沼133　千代田厚史

## 博物館だより

### 茅野市八ヶ岳総合博物館

**平成16年度収蔵資料展**

**ー河内晋平と八ヶ岳火山列ー**

**「登った　調べた　40余年」**

**会期：平成16年９月11日（土）～10月17日（日）**

平成15年６月，火山地質学の研究者である故河内晋平氏（元信州大学教授・日本地質学会会員）の岩石資料及び図書などの氏の研究資料一式をご遺族から寄贈を受けました．今回，この資料を中心に，火山としての八ヶ岳の最新の研究成果を示す展示会を企画します．

**○イベント：展示解説と収蔵庫ツアー**

10月10日（日）・16日（土）展示パネルだけでは語りきれない展示解説を行います．また重さ３トン以上ある収蔵庫にある岩石標本も見学します．

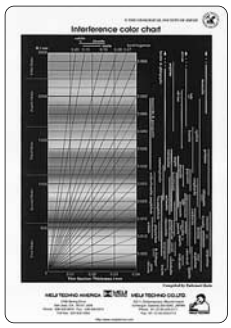
入館料：大人310円・高校生210円・小中学生150円

所在地：長野県茅野市豊平6983

電話　0266-73-0300　　FAX　0266-72-6119

URL：http://www.city.chino.nagano.jp

## 「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）が下敷き（プラスティック製/A4版/両面カラー）になりました．



岩石学を学習する学生さんをはじめ，偏光顕微鏡を使用する全ての研究者の方々に有効に活用していただけることと思います．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．

会員価格　200円　非会員価格　300円

**NOW ON SALE！！**

## 学協会・研究会報告

# 第10回国際フィッショントラック会議　参加報告

**長谷部徳子**（金沢大学自然計測応用研究センター）

８月８日から13日にオランダ・アムステルダムで「第10回国際フィッショントラック会議　年代測定と熱年代学（10th International Conference on Fission Track Dating and Thermochronology）」が開催された．財団法人・井上科学振興財団から出席旅費の一部援助を受け，会議に出席するチャンスを得たので紹介したい．

本会議は４年毎に開催される．以前は，フィッショントラック（FT）会議と重ならないようにやはり４年毎に開催されていたICOG（International Conference on Geochronology, Cosmochronology and Isotope Geology）の際にも集まっていた．このICOGの時の集まりをFT会議として数えることもあり，第10回といっても，37年の歴史があるわけではない．出席者は約140人，参加国はヨーロッパを中心に多岐にわたるが，この手法が原子炉での照射を必要とするために，原子炉へのアクセスがない地域からの参加者は皆無に等しい．今回は，これまでと比べて中国からの参加者が格段に増えたことが目新しく，日本での日常生活で日々感じる中国の台頭をここでも実感することとなった．中国は次回会議の開催地としても立候補を行った．残念ながら選ばれることはなかったが，ICOGの苦い経験もあり，今後の中国とのつきあい方について，あちこちで井戸端会議が開かれていた．中国を代表するメンバーを一人選んでCommittee のメンバーとすることが決定されたが，大国中国のこと，決して一枚岩でないようで会期中に誰を推薦するか決まらなかったようである．今後の動向が見物である．一方日本からの参加者はたった３人と少なく，前回，前々回と比べて寂しい状況であった．特に学生の参加がなかったことが印象的で，年代学という地球科学の重要な基礎分野の一つが若い人の興味を集めなくなり衰退することに憂慮を感じた．私自身奮起しなければならないこともその通りだが，学術政策の影響もあるのだろうかとも思った．この国際会議を日本で開催してはどうかというプレッシャーは年々高くなるばかりである．国際的な期待に答えられるよう，国内の状況を考えていかなくてはならない．

会議は前半の基礎的なことに関する議論と，後半の応用研究の紹介に大きく分けることができる．会議の性質上，前半の基礎に関する議論はたいへん盛り上がった．フィッショントラックのデータを利用して熱史を構築する際のモデリングの手法や，その元になるトラックの短縮をどう数式化するかの議論は，いつも通り盛んであった．しかし今回はさらに基本に戻り，データそのものの持つ曖昧さ（実験条件による影響や個人差など）についての議論が活発であった．今さらのような気もしたが，それもこの分野の成熟を示しているようにも思う．Over interpretationを反省し，言えることと言えないことをしっかり認識しようという態度である．新しくもたらされた内容としては，今まで利用されてこなかったモナザイトのFT年代測定についての報告と，原子炉を利用せずにLA-ICP-MSでウラン濃度を測定する年代決定に関する報告があった．モナザイトのFT系はずいぶん低い閉鎖温度をもつらしく，基礎研究・応用研究ともに，今後の発展によってはいろいろ面白いことに利用できそうであった．LA-ICP-MSを利用した報告をしたのは他ならぬ私自身で，学会参加者の反応がとても良かったのには正直驚いた．しかも時代の流れや日本国内での研究の現状から考えると，似たような発表があるのではと思っていたのだがそれもなく意外であった．この研究が可能になったのは金沢大学のCOEプロジェクトのおかげであり，関係者の方に深く感謝したい．また応用についてはテクトニックに活発な地域の上昇・削剥史がいつもどおり主流であったが，それをさらに気候，降水量や地形発達と結びつけた議論がおもしろかったし，時代の要求を満たしていると感じた．また断層に関する研究も同様に注目を集め，その分野では日本からの寄与が大きかったので誇りに思った．

**図１：参加者の記念撮影．最前列右から３人目の大入道が本会議の主催者，オランダのProf. Andriessen**

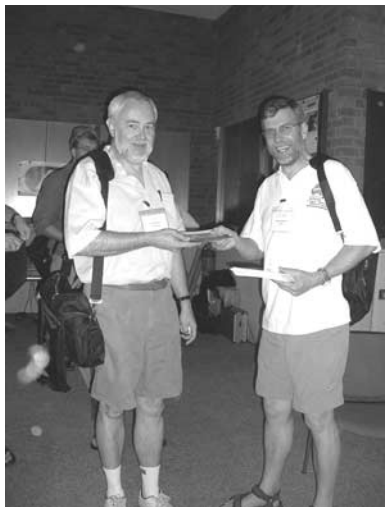


**図２：2006年にオーストラリア・メルボルンで開催されるGoldschmidt Conferenceの宣伝ビラを配るGleadow教授．受け取っているのはFT界の重鎮イギリス・Hurford博士．**

正直に言うと今回の学会は事前のアナウンスなどがあまりなく，いったいどうなることかと危ぶんでいた．ヨーロッパではオランダ人はおおらかなこと（ちょっと違う言葉を使うこともできますね）で有名らしく，さらに中心になって学会を運営してくれた人は一般的なオランダ人を50パーセント増しにしたくらいのおおらかさだとの評判で，そのせいか全く組織だったところがなかったのである．しかしおわってみるといつも通りのFT会議で，生産的な暖かい雰囲気の中で無事に終了した．残念だったのは，今ではどこの会議でも当たり前になりつつあるインターネットへの接続ができなかったことと，毎回行われる

中日の一日巡検が半日に減ってしかも美術館見学におき替わっていた点である．さらにいうと，学会後の巡検（アムステルダムからIGCの開催地フィレンツェまでの巡検の予定だった）もキャンセルされてしまって，オランダの地質を堪能する機会が全くなかったのが悔やまれる．これはきっとまた遠くない未来にオランダで学会を開こうという意思の現れにちがいない．次回は2008年にアメリカ・ジャクソンシティで第11回FT会議が行われる．北米大陸で行われるのは実に12年ぶりである．その前2006年にはオーストラリア・メルボルンでGoldschmidt Conferenceが開催される．メルボルン大学には大きな年代学のグループがあり，そこのボスが自ら学会の宣伝のビラ配りをしていたので，きっと多くの研究者が参加を考え始めたに違いない．次の会議までにまた何か面白い発表ができるように，頭をしぼりたい．

## 第19回HKT ワークショップ報告

**吉田　勝**（ゴナドワナ地質研究所、トリブバン大学）・**S.M. Rai**（トリブバン大学）
**S.A. Rashid**（トリブバン大学）・**酒井哲也**（九州大学大学院）

ヒマラヤ－カラコラム－チベットワークショップは近年各方面からから注目されているこの地域の地球科学，地球環境，自然災害に関する研究発表，情報交換を目的とした唯一の国際会議である．

この会議は1985年の第１回目以来殆ど毎年，ヒマラヤ研究の盛んな欧州で開催されてきた．しかし，第９回目（1994年）にネパールの首都カトマンズで開かれて以後は，ほぼ欧州とアジアで隔年に開かれるようになっている．今回の会議は日本では最初，アジアで５回目の開催であった．

ワークショップは2004年７月10日～12日の３日間にわたり，北海道ニセコ町で行われ，13日には付属の野外巡検が有珠火山周辺であった．会議の主催は，同ワークショップ組織委員会，北海道大学21世紀COE「新・自然史科学創成」，名古屋大学21世紀COE「太陽・地球・生命圏相互作用系の変動学」および北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の４組織であった．参加者は14カ国120人で，国別の参加者数は日本（45），中国（17），インド（13），ネパール（13），スイス（6），パキスタン（6），フランス（4），米国（3），ドイツ（3），ベルギー（2），オーストラリア（2），ロシア（1），英国（1），イタリー（1）であった．

会場はニセコ東山プリンスホテルで，緑豊かなニセコアンヌプリの中腹にあり，ホテルの前からは広いゴルフコースが広がっていた．７月10日は朝９時から簡単な開会式があり，組織委員長在田一則氏の挨拶があった．引き続いてシンポジウムが始まった．会議室は100人超程度の席があり，室内後方にはポスター展示スペースがあった．発表論文は全部で117題，このうち口頭発表63題が５分科会（１題15分）と特別セッション（１題15分～35分）で順次発表された．ポスターは毎日15から20題ほど，全体で54題がほぼ分科会の順番で発表された．従って参加者はすべての分科会とポスターセッションに参加することができた．講演要旨集はヒマラヤ科学誌（Journal of Himalayan Sciences，カトマンズ）の特別号（２巻４号）として当日参加者に配布された．このすべての発表要旨は，近く同誌のホームページ（http://www.himjsci.com）でも公開されるようである．

８月10日は第１及び第２分科会（衝突テクトニクスと変成・変形過程A及びB）で20講演があった．中国研究者らはチベット高原から３題，ロシア研究者らからは中央アジアに関する２題の報告があり，インド亜大陸の衝突が広くアジア南部から中部にかけて大きな構造的影響を及ぼしていることが実感された．インドからは主として北西ヒマラヤの地質など６題の講演があり，様々な新しい情報が提供された．スイスからも３題の講演があったが，なかでもA. Steckの北西ヒマラヤの地質と構造・変成史は詳しいデータと綿密な解析でさすがであった．

一般的あるいは広域にわたるトピックスとしては丸山茂徳によるヒマラヤ高圧変成作用が面白かった．ジルコン内部の包有鉱物から，ハイヒマラヤ片麻岩は世界の他の多くの変成帯と同様に，超高圧変成作用を初期に被っていること，広域変成帯で一般に信じられてきた時計周りのPTt経路は間違いであることを強調した．さらに彼はジルコンコアの年代から，超高圧変成作用は現在ハイヒマラヤ片麻岩を特徴付けるバロー型変成作用よりも3000万年ほど前であると指摘した．吉田勝とB.N.Upretiはハイヒマラヤ変成岩の既公表の年代データを解析し，ヒマラヤを含むインド亜大陸が東南極，オーストラリアと対置するクラシックな原生代東ゴンドワナモデルを支持した．山田泰広らは層状砂箱モデルのDEMシミュレーションでインド－ユーラシア衝突テクトニクスを示し，反響を呼んだ．

ポスターは23題が，２時間の昼休みを中心に展示された．日本人の関与したものが13題と多数であった．ここでは酒井治孝を中心とした九州大学グループがレッサーヒマラヤの構造発展史などの報告３題，北大の在田グループによる主中央衝上断層を中心とする４題などがあった．なかでも岩野秀樹らによるレッサーヒマラヤ帯岩類のAr-Ar及びフィッショントラック年代によるレッサーヒマラヤ結晶質ナップの移動削剥史研究と，山口はるかと在田一則によるガーネットの組成マッピングによるアンナプルナ地域とカトマンズナップの変成・削剥史研究は注目を引いた．これらの研究はいずれ相互協力によって一層精密

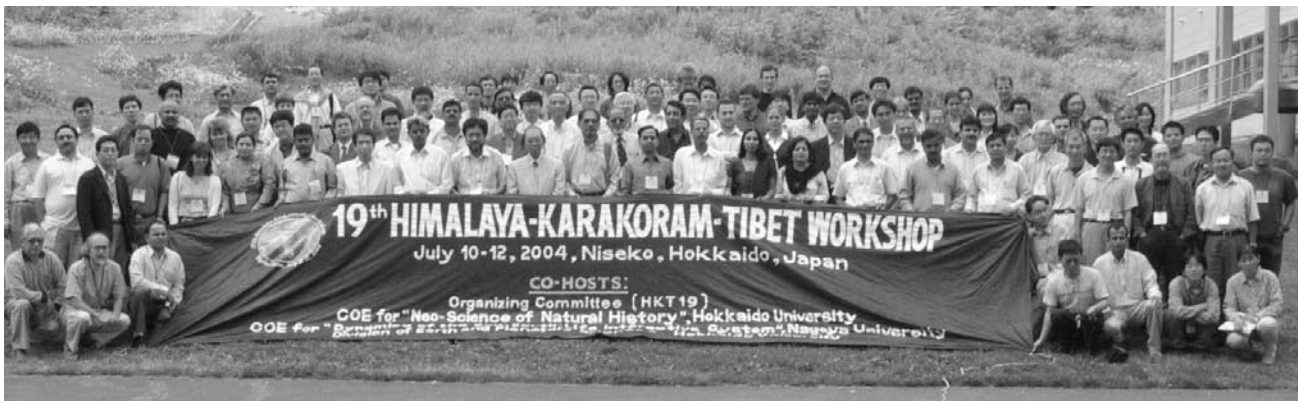



**写真１　会場の外で参加者全員**

**写真２　レセプションはインド女性とパキスタン男性のデュエットで盛り上がった**

な造構史研究が出来るのではないだろうか．

11日はまず第３分科会「火成作用・地球化学・地質年代学」で13題の発表があった．中国グループのチベットや南中国の報告，日本とパキスタンの共同研究成果として，北西ヒマラヤ，カラコラム，コヒスタンからの報告が目立った．年代研究が多く，その殆どがSHRIMP法であった．中嶋隆らはコヒスタン島弧で，トーナライト岩体のSHRIMP年代を黒雲母Ar-Ar年代と比較し，同島弧の削剥史を議論した．また産総研の小笠原正継は同研究所のSHRIMPを立ち上げ，カラコラムの花崗岩類の年代を報告した．

午後からは第４分科会「層序とベーズン」及び第５分科会「地形発達，災害地質と環境問題」で，あわせて13題の発表があった．第四分科会では中国，ネパール，インドの研究者らによるチベットあるいはヒマラヤシワリーク帯の新生界を対象にした発表があった．第５分科会は地形，氷河，災害にわたる様々な発表があった．山田知充は東部ヒマラヤのエベレスト地域を中心に，サテライトイメージによる氷河湖の増加を1976年と2000年を比較して示した．災害に関しては北大の渡辺悌二研究室から２題の報告があった．

この日のポスター発表は18題があり，地域地質，鉱床，地球化学，年代，化石，災害など多くの分野のものであった．この中には産総研とパキスタン地質調査所によるパキスタン北部の火成岩の地球化学的共同研究成果３題も含まれていた．

12日は特別セッション「ヒマラヤチベットの上昇とアジアモンスーン：第三紀後期から現在までの地殻変動，気候変化及び生物対応の相互作用」で13題の発表があった．講演の主な内容は，ヒマラヤの上昇に関する研究のレビュー（M.Harrison & A. Yin），ヒマラヤの上昇と気候変動をどう区別して議論を行うか（P. Huyghe ら），中新世以降のヒマラヤのテクトニクスとカトマンズ盆地のコア解析に基づく気候変動の議論（酒井治孝ら），主に中国，雲南の盆地からの古環境解析（E. Appel ら），ヒマラヤ周辺の植生分布とヒマラヤ回廊の議論（田端秀雄），昆虫の分布とヒマラヤ山脈の関係（荒谷邦雄），現在のヒマラヤの地形を想定した場合と，標高の割合が違う場合の気候の違いのシミュレーションに基づく議論（安成哲三），ヒマラヤの上昇による巨大気候変動のシュミレーション（阿部　学ら）などである．内容をみてもわかるように，極めて広い分野からヒマラヤの議論が行われた．同時にポスター発表でもこれらに関連するもの，とくにカトマンズ盆地に関連するポスター（九大のカトマンズ盆地コア解析研究グループなど）や山岳域での地形変化研究など13題があった．

地層やコア試料からの古気候変動の復元，とくに炭素14年代法が適用可能な年代については高精度の復元がなされつつあり，近い将来，気候変動についての理解が相当深まることが期待される．問題は古地磁気年代に頼らざるを得ない年代である．今回の議論でも，さまざまな代理指標に見られた変動を，MISの変動に対応させた研究があった．陸域の堆積物から気候変動を研究する目的，とくに山脈の形成との関連をさぐる場合には，個々の盆地独自の気候変化を検出することが極めて重要になる．年代を高精度で得たいというのは誰しもが強く望む所であろう．また，これだけ広い分野のヒマラヤ研究者が一同に会する機会もめったになかろう．セッションのまとめとして，異なる分野間での議論がなかったのが残念である．しかしそれを差し引いても，この広い視点を扱ったセッションは極めて意義深いものであった．

閉会会議では，次回以降のHKTワークショップの開催国について在田組織委員長から報告があり，フランスのG. Mascle（2005年HKT20の世話人）と英国（2006年HKT21）の開催グループを代表してE.Schill（彼女はドイツだが）がそれぞれ一言づつ招待の辞を述べた．2007年以後についても，インドと香港から立候補があった．また，成果論文集については，在田から，Journal of Asian Earth SciencesとThe Island Arcが予定されていると報告された．Gondwana Research を推す意見もあった．

なおシンポジウムの合間，10日の夜にはT. Ojha氏によるスライドショーが参加者を楽しませた．11日夜はレセプションディナーナーであった．ここでは逢坂ニセコ町長が多数のニセコビールを提供すると共に，なかなか立派な歓迎演説（英語）をした．また，インド女性（P.Verma）とパキスタン男性（H.U. Rehman）がラブソングをデュエットし，喝采を浴びた．

本ワークショップは従来のHKTに比べてアジアからの参加者数が最大であった．組織委員会その他による参加旅費補助は大変に有効であったと思われる．インドとパキスタンの両方の国から多数参加したことは，本ワークショップの成功を象徴するもののようであった．また，多数かつ多方面にわたる日本人ヒマラヤ研究者が一堂に会したのも大きなことであった．日本人の関わった発表は全体で53題と，発表総数の半数近くを占めた．これらの発表は長期にわたる野外研究プロジェクトや，現地機関や日本への留学生等との共同研究成果であり，多数の，新しい有益なデータに裏づけされたものが多く，今回の会議の学問的成果の中心を担っていたといっても過言ではないだろう．

最終日の巡検ではニセコの南に位置する有珠山周辺を訪れた．16時には千歳空港へ戻るという予定のため，実質的には午前中のみの巡検となった．案内は北大の中川光弘氏であった．まずは洞爺湖の対岸から有珠山と，2000年に噴火のあった西山火山を眺めた．そして2000年の噴火に伴ってできた西山火山の周辺を見学した．この周辺は見学用の歩道以外は噴火当時の様子がほぼ保存されており，とくに火山活動によって急激な地盤の隆起が起きた場合に，それに関連して何が起こるのか，どのような地形ができるかを理解するためには絶好の場所である．70mの隆起の証拠，隆起に伴ってできた湖，とくに国道が破壊されたまま保存されているところが極めて生々しい．隆起に伴って所々に生じた正断層帯では，6-7mの変動を記録した断層崖がそのままの姿で残されており，あらためて，火山活動のすさまじさを実感した．短い巡検ではあったが，現在のヒマラヤにはない火山とその活動の様子を実感できたすばらしい巡検であり，とくに火山が無いか，或いは稀な外国からの参加者には印象深かったようである．

全体としてHKT19はこれまでのHKTの中でもっとも充実し，成功した会議ではなかっただろうか．とくに，今後のヒマラヤ研究の方向への指標が示されたことと，日本のヒマラヤ研究の振興に大きく寄与したであろうことは特筆に価する．この会議の運営に携わった北大の在田一則教授を始めとする関係の方々のご努力を讃えると共に，心から感謝申し上げたい．

## デルタ国際シンポのお知らせ：
## IGCP-475　モンスーンアジア太平洋地域のデルタの第２回年会

IGCP-475: DeltaMAP「モンスーンアジア太平洋地域のデルタ」の第２回年会が，2005年１月10日～16日にベトナムのホーチミン市で開催されます．更新統のエスチュア／デルタ堆積物のプレ巡検１日，研究発表３日，メコンデルタポスト巡検３日の７日間，オプショナルでカンボジアのトンレサップ湖とアンコール遺跡群の２日間の巡検も用意されています．登録料は300ドルです（巡検費用を含む，ホーチミン市での宿代は除く）．

研究発表は，James Syvitski, Eric Wolanski, Chuck Nittrouerら約10名の基調講演と一般研究発表（ポスター）から構成されます．登録，発表の締切は，2004年10月15日となっています．皆様の参加をお待ちしています．詳細は，アジアデルタのホームページ＜http://unit.aist.go.jp/igg/rg/coast-rg/ADP.html＞をご覧下さい．

問合せ先：斎藤文紀（産業技術総合研究所）
E-mail: yoshiki.saito@aist.go.jp

## 第17回国際堆積学会議（17th International Sedimentological Congress）開催のお知らせ

国際堆積学会議は，国際堆積学協会（International Association of Sedimentologists）が中心となって開催される国際会議で，４年に１回世界各地において開催されています．この度，東アジア地域で初めてとなる第17回国際堆積学会議（ISC 2006）が，2006年に福岡において開催されます．

本会議は，堆積学に関連する研究成果を国際的に発表し，討論するよい機会です．また、若い人たちには世界の堆積学の動向を肌で感じる機会ともなります．多数の方々の参加をお待ちしています．本会議の日程等は以下のとおりです．なお，会議に関する詳細な情報やサーキュラーは，ウェブサイト（http://www.isc2006.com）より入手できます．

主　　催：第17回国際堆積学会議組織委員会・国際堆積学協会
共　　催：日本堆積学会・日本地質学会
日　　程：**2006年８月27日～９月１日**
場　　所：福岡国際会議場
メインテーマ：
「From the Highest to the Deepest」

ヒマラヤからマリアナ海溝まで，様々な堆積環境・堆積過程が存在する東アジアの地形・堆積学的特徴を表すと共に，堆積学における世界最高レベルでの深い理解と探求，ならびに高い研究成果の追及を意味します．

科学プログラム：

それぞれの分野の第一人者による12の特別シンポジウムと，堆積学と関連する多様な分野をカバーする47のテクニカルセッション，野外巡検（国内外42コース），ショートコース，ワークショップが予定されています．テクニカルセッションについては新たなタイトルの提案も受けています．是非，ファーストサーキュラーをご覧下さい．

特別シンポジア：

Theme 1 : Tectonics, climate, and sedimentation
- SS1-1 Tectonics, volcanism and sedimentation across island arcs
- SS1-2 Monsoons and the Himalaya: tectonics, climate and land-ocean linkages
- SS1-3 Continental margin sedimentation and deep-water sedimentary systems

Theme 2 : Environmental sedimentology and human society
- SS2-1 Coastal environments and human activity
- SS2-2 Catastrophic sedimentary processes: mechanisms and hazard mitigation

Theme 3 : New targets and innovation in resource sedimentology
- SS3-1 Gas hydrates: origin, exploration and resource potential
- SS3-2 3D seismic technology for exploration and sediment body analysis

Theme 4 : Evolution of the biosphere and geosphere
- SS4-1 Microbial processes and products in sedimentary systems
- SS4-2 Boundary events and global change

Theme 5 : Frontiers in sedimentology
- SS5-1 Role of sedimentology in Earth drilling projects（IODP & ICDP）
- SS5-2 Extraterrestrial sedimentology
- SS5-3 Integrated strata analysis

今後のスケジュール：
2004年11月30日
　ファーストサーキュラー回答締切
2005年８月
　セカンドサーキュラー発送
2006年2月28日
　講演要旨締切

参加費用：登録料　一般　30,000円，
　　学生　10,000円
　　要旨投稿料　12,000円

問合せ：〒101-0051　東京都千代田区神田神保町2-2共同ビルディング6F
近畿日本ツーリスト株式会社
ECCカンパニー内
第17回国際堆積学会議組織委員会
事務局
e-mail: isc2006-ec@or.knt.co.jp,
FAX: 03-3263-5961

ジオロジストのための

## 法律メモ

### ご挨拶

弁護士　高木宏行

初めまして．貴学会には，昨年からお世話になっております．たいへん微力ではございますが，どうぞ宜しくお願い致します．

前回（ニュース誌８月号），略歴のご紹介をしていただきました．弁護士も最近はTVなども登場するようになり，多少認知されるようになってきておりますが，まだまだ十分でないのが実情のようです．弁護士は，仕事をするためには日本弁護士連合会（日弁連）と各都道府県にある弁護士会の両方に加盟しなければなりません．基本的には各都道府県に１つの弁護士会がありますが，東京は，東京弁護士会，第一東京弁護士会，第二東京弁護士会の３つの弁護士会があり，私は第二東京弁護士会に所属しています．第二，とついておりますが，野球の二軍の意味ではありませんので，第一東京弁護士会に上がるなどということはありません．ただ，移籍の意味での登録替えというのはあります．

今日では，弁護士会自体が非常にさまざまな活動をしています．組織を運営するための委員会などだけでなく，消費者問題を取り扱う委員会，民事介入暴力を取り扱う委員会など，業務に関連したものもあり，そういったところでは研究やそのメンバーが組んで具体的な事件を取り扱ったり，市民向けの催しものをしたりと幅広な活動をしています．

私に関して申し上げますと，東京弁護士会と第二東京弁護士会とが合同で作って運営している専門図書館の嘱託に就いています．図書館に受け入れるべき図書の一次的な選択をいろいろな資料を見ておこなったり，委員会としての意見書をつくったりすることが役目です．

また，弁護士会の関連団体として存在している財団法人日弁連交通事故相談センターの東京支部で執行部におります．ここでは，交通事故によって発生する民事の問題を研究したり，法律相談を受けたり，加害者と被害者の間に入って示談をあっせんしたりしています．また，「損害賠償算定基準」という通称「赤い本」と呼ばれる本の編纂・改訂（毎年）をしています．法律には，人がこのくらいの怪我をしたらいくら支払いなさい，ということが書いてありません．そもそも損害とは何か，ということ自体もそれほどはっきりしているわけでもありません．そのため，支払う側（多くは保険会社）はなるべく支払わないようにしようとしますし，請求する側はなるべく多く，となります．そこで，被害者保護の立場から適正な賠償を基準化しようとしているのです．

貴学会には，主として著作権を契機に法務委員会のオブザーバーとして関与させていただいております．著作権にしても，全てのことが法律に書いてないのは同じです．具体的な場面に当てはめるときには相当に迷います．そういう迷いが生じる余地がありますので，紛争にもなりますし，某テレビ番組で弁護士の意見が割れてしまうということも起こります．一義的に答えがでるようなものであれば，コンピュータにやらせるのが一番よいということになりますが，今のところ，法律の分野はそうはなっていません．そういういろいろな「迷う場面」では皆様と一緒に考えて行きたいと思っております．

また，法化社会の中では，法律家的な発想や考え方が求められることがあります．特に手続的な面を取り決めようとする時や，会員の権利などに関連する事項を決めようとする場合などには，どの法律ということはありませんが，法律的な発想・考え方が必要になってくることがあると思います．そのような点で，多少なりともお役に立てればと思っております．

弁護士　高木宏行
（キーストーン法律事務所）
日本地質学会顧問

第二東京弁護士会所属
現在　東京弁護士会・第二東京弁護士会合同図書館嘱託，（財）日弁連交通事故相談センター東京支部　副委員長

---

### ☆リーフレットシリーズ・３　好評発売中！！

## 『大地をめぐる水―水環境と地質環境―』

第１作「大地の動きを知ろう―地盤・活断層・地震災害―」，第２作「大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo-Pollutions」に引き続きリーフレットシリーズ第３作「大地をめぐる水―水環境と地質環境―」が発売になりました．

Ａ２版裏表カラー印刷，ハンディータイプでさらにポスターにもなります．

ご希望の方は以下の要領でお申込下さい．

会員価格300円　非会員価格400円

申込方法：学会事務局宛に，希望部数を記入し，返信封筒（切手貼付のこと）を入れてお申し込み下さい．

※少部数の場合は，代金は切手で同封可．

なお，サイズが横15㎝・縦21㎝，重さ25ｇ/部ですので，郵送につきましては，以下のようにお願いします．

定型封筒の場合：90円切手貼付．ただし，二つ折りにしての郵送となります．

定型外（15㎝×21㎝以上）封筒の場合：130円切手を貼付．

## 取扱い地質図一覧（委託販売）　04/9月現在

会員には代金後払いで注文をお受けします．電話かFaxにて（なるべくFaxで），地質学会事務局へお申込み下さい．
Tel. 03-5823-1150，Fax. 03-5823-1156

100万分の1日本地質図　第3版　4枚組　¥6, 000
100万分の1日本重力図（ブーゲー異常）　¥3, 700
地球化学アトラス　－北関東－　¥5, 300
200万分の1地質編集図
　コンピュータ編集による日本地質図（付記付き）¥2, 200
　日本の磁気図（説付き）　¥2, 400
300万分の1 日本列島地温勾配図　¥1, 600
数値地質図
　200万分の1東・東南アジアの数値地質図（説付き）　¥2, 500
　20万分の1数値地質図幅集
　　北海道北部　¥1, 000，北海道南部　¥1, 000　東北¥2, 900
　　関東甲信越及び伊豆小笠原諸島　¥2, 700
　日本の新生代火山岩の分布と産状　CD-ROM版　¥1, 200
　東・東南アジア都市域の地球科学データ CD-ROM版　¥1, 100
　日本地質図索引図（第1集～第8集　CD-ROM版1963～1999）　¥900
　北海道地質ガイドマップ　CD-ROM版　¥900
　東・東南アジア都市域の地球科学データ （第２版）CD-ROM版　¥1, 100
　富士火山地質図CD-ROM版　¥1, 100
　日本重力図CD-ROM版（説付き）　¥900
　400万分の1東アジア磁気異常図 CD-ROM版（第２版）　¥900
　400万分の1韓国南部・日本西部及び周辺海域の地球科学図集 CD-ROM版（第２版）　¥1, 000
　日本周辺海域音波探査データベース　CD-ROM版　¥900
　東北・九州地熱資源図CD-ROM版　¥900
特殊地質図
　東京湾とその周辺の地質　¥5, 900
　秋田地熱資源図　¥4, 800
　諏訪湖湖底堆積状況図（1：1.35万）　¥1, 500
　東海沖海底音響画像図（1：40万）　¥700
　札幌－岩内地域火山・鉱化熱水系分布図　¥3, 600
　札幌地熱資源図　¥4, 400
　青森地熱資源図　¥4, 900
50万分の1鉱物資源図
　北海道（東部, 西部）¥6, 800, 東北　¥4, 100,
　関東甲信越　¥4, 300, 中部近畿　¥4, 300,
50万分の1地質図幅
　旭　川（第2版）　¥2, 000
50万分の1活構造図
　東京（第2版）　¥3, 100, *京都（第2版）　¥3, 500
2.5万分の1地質構造図
　阿寺断層系ストリップマップ（説付き）¥2, 800
　中央構造線四国地域活断層ストリップマップ（説付き）¥4, 300
　中央構造線近畿地域活断層ストリップマップ　¥2, 300
　柳ヶ瀬－養老断層系ストリップマップ（1：10万）　¥2, 400
　糸魚川－静岡構造線活断層系ストリップマップ（1：10万）¥2, 400
　兵庫県南部地震に伴う地震断層ストリップマップ
　野島・小倉及び灘川地震断層－（1：1万, 説付き）¥3, 400
　花折断層ストリップマップ　¥2, 700
海洋地質図
　鳥取沖海底地質図（1：20万, 説付き）¥3, 800
　鳥取沖表層堆積図（1：23万, 説付き）¥3, 100
　室戸沖表層堆積図（1：20万, 説付き）¥2, 700
　経ヶ崎沖表層堆積図（1：20万, 説付き）¥2, 900
　下北半島沖海底地質図（1：20万, 説付き）¥3, 200
　経ヶ崎沖海底地質図（1：20万, 説付き）¥3, 400
　粟島周辺海底地質図（1：20万, 説付き）¥5, 200
　佐渡島北方表層堆積図（1：20万, 説付き）¥3, 500
　佐渡島北方海底地質図（1：20万, 説付き）¥4, 100
　豊後水道南方海底地質図（1：20万, 説付き）¥4, 800
　豊後水道南方表層堆積図（1：20万, 説付き）¥3, 700
　駿河湾海底地質図（1：20万, 説付き）¥5, 400
　ゲンタツ瀬海底地質図（1：20万, 説付き）¥3, 900
　塩屋崎沖海底地質図（1：20万, 説付き）　¥5, 000
　響灘表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 700
　ゲンタツ瀬表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 600
　日向灘表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 400
　塩屋埼沖海底地質図（1：20万, 説付き）　¥3, 400
　響灘表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 400
　能登半島西方表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 400
海外地球科学図　（英文）
　東・東南アジア熱流量図（1：500万）　¥2, 200
　中国モウス沙莫よび周辺地域の水文環境図（1：50万, 説付き）¥6, 700
　韓国南部・日本西部及び周辺海域の地球科学図集　¥1, 300,
　東アジア地質災害図　¥3, 500
重力図　（ブーゲー異常）1：20万
　青森地域　¥2, 100, 秋田地域　¥1, 400,
　山形地域　¥1, 400, 北上地域　¥2, 300,
　渡島地域　¥1, 700, 苫小牧地域　¥1, 500,
　札幌地域　¥1, 700, 帯広地域　¥1, 500,
　旭川地域　¥1, 500, 北見地域　¥1, 500,
　根室地域（2枚組）¥2, 400, 天北地域　¥1, 800,
　名寄地域　¥1, 800, 大分地域　¥1, 700
　福岡地域　¥2, 300,
空中磁気図
　尖閣諸島海域　¥2, 000
　伊豆大島地域（1：5万）伊東周辺地域（1：2.5万）¥1, 000
　雲仙地域（1：5万）　¥1, 000
　西表島周辺地域（1：10万）　¥1, 000
　由利原地域高分解能空中磁気異常図（1：5万）　¥2, 600
火山地質図
　桜島火山（1：2.5万）¥1, 200 , 有珠火山（1：2.5万）¥1, 100
　草津白根火山（1：2.5万）¥1, 500 , 阿蘇火山（1：5万）¥1, 100
　北海道駒ヶ岳火山（1：5万）¥1, 700 , 浅間火山（1：5万）¥1, 700
　青ヶ島火山および伊豆諸島南方海底火山（1：1万, 1：65万）¥2, 500
　雲仙火山（1：2.5万）　¥1, 100 , 那須火山（1：3万）　¥2, 100
　伊豆大島火山（1：2.5万）　¥1, 700, 霧島火山（1：5万）　¥1, 500
日本炭田図
　天草炭田地質図　¥6, 800
日本油田・ガス田図
　新潟県中部地域　¥3, 700
20万分の1地質図幅
　相川及び長岡の一部　¥1, 700, 青森　¥2, 200,
　飯田（第2版）¥2, 300, 厳原　¥1, 300, 岩内　¥2, 300,
　宇都宮　¥2, 600, 浦河　¥2, 500, 宇和島　¥2, 000, 岡山及び丸亀　¥2, 500,
　鹿児島　¥2, 400, 金沢　¥2, 600, 唐津（第2版）¥2, 100, 岐阜　¥2, 600,
　木本　¥1, 300, 久米島　¥1, 800, 甲府　¥2, 800, 高梁　¥2, 400, 高田　¥2, 600,
　徳島（第2版）¥2, 000, 日光　¥2, 800, 富山　¥2, 300,
　長野　¥2, 900, 名寄　¥2, 200, 八丈島　¥1, 300, 八戸　¥2, 200,
　福岡　¥2, 400, 福島　¥3, 500, 水戸　¥2, 600, 宮崎　¥2, 500, 村上　¥2, 600,
　夕張岳　¥2, 400, 和歌山　¥2, 500
５万分の１地質図幅　地質図1：5万, 地域地質研究報告
　赤名　¥2, 700, 姉崎　¥3, 400, 秋田　¥1, 800,
　飯山　¥5, 500, 出雲崎　¥3, 200, 市野瀬　¥2, 400, 犬飼　¥3, 400,
　伊平屋島及び伊是名島　¥1, 800, 今市　¥2, 900,
　上野　¥4, 000, 浦郷　¥3, 200,
　恵比島　¥2, 800, 大分　¥3, 800, 大阪西南部　¥2400,
　大阪西北部　¥2, 400, 大阪東南部　¥3, 400, 大阪東北部　¥3, 800,
　大須　¥2, 400, 小値賀島及び肥前平島　¥2, 400, 大宮　¥2, 900,
　尾鈴山　¥3500, 折尾　¥3, 000, 海田市　¥2, 700, 柿崎¥3, 300,
　柏崎　¥4200, 金山　¥3, 100, 川前及び井出　¥6, 000, 上高地　¥3, 500,
　刈和野　¥2, 400, 岸和田　¥3, 700, 木曽福島　¥4, 000, 北小松　¥3, 900,
　岐阜　¥3, 700, 京都東北部　¥3, 700, 珠州岬，能登飯田及び宝立山　¥4, 400,
　熊川　¥3, 600, 熊田　¥3, 300,
　倉橋島及び柱島　¥2, 900, 黒石　¥3, 400, 桑名　¥3, 200,
　下呂　¥2, 700, 神浦　¥2, 800, 神戸　¥3, 100, 小倉　¥3, 700,
　佐伯　¥3, 000, 佐賀関　¥2, 600, 桜井　¥4, 000, 篠山　¥2, 900,
　三条　¥4, 100, 椎葉村　¥4, 300, 志津川　¥4, 100, 清水　¥2, 700,
　白馬岳　¥3, 600, 末吉　¥3, 100, 須磨（2版）¥2, 400,
　洲本　¥2, 600, 千鹿　¥2, 900, 相馬中村　¥5100, 園部　¥2, 900, 高遠　¥4, 200,
　田島　¥3, 500, 龍野　¥3400, 立山　¥4, 700,
　玉庭　¥4, 300, 竹生島　¥2800, 津西部　¥4, 100, 敦賀　¥3, 600,
　十勝池田　¥3, 400, 豊岡　¥2, 400, 苗場山　¥2, 700,
　長岡　¥4, 000, 中野　¥2, 500, 那古　¥1, 800, 名張　¥3, 200,
　浪江及び磐城富岡　¥3, 300, 奈良　¥3, 700, 西津　¥4, 100, 二本松　¥2, 900,
　乗鞍岳　¥3, 200, 八海山　¥2, 700, 宮下　¥3, 600, 広島　¥1, 500,
　広根　¥3, 500, 福江　¥2, 600, 福知山　¥3, 200,
　北条　¥4, 000, 松江　¥3, 300,
　松之山温泉　¥3, 700, 三重町　¥3, 200, 御岳昇仙峡　¥2, 800, 三津　¥2, 500,
　美濃　¥2, 400, 姫島　¥2, 600, 宮原　¥4, 500, 槍ヶ岳
　¥2, 900, 温泉津及び江津　¥4, 200, 湯湾　¥3, 200, 横山　¥3, 700, 四ッ谷
　¥2, 500, 四日市　¥2, 700, 寄居　¥3, 000, 和歌山及び尾崎　¥2, 300

*このほかの地質図, 産総研地質調査総合センター出版物の詳細は以下のホームページhttp://www.aist.go.jp/GSJ/Map/でご覧になれます．

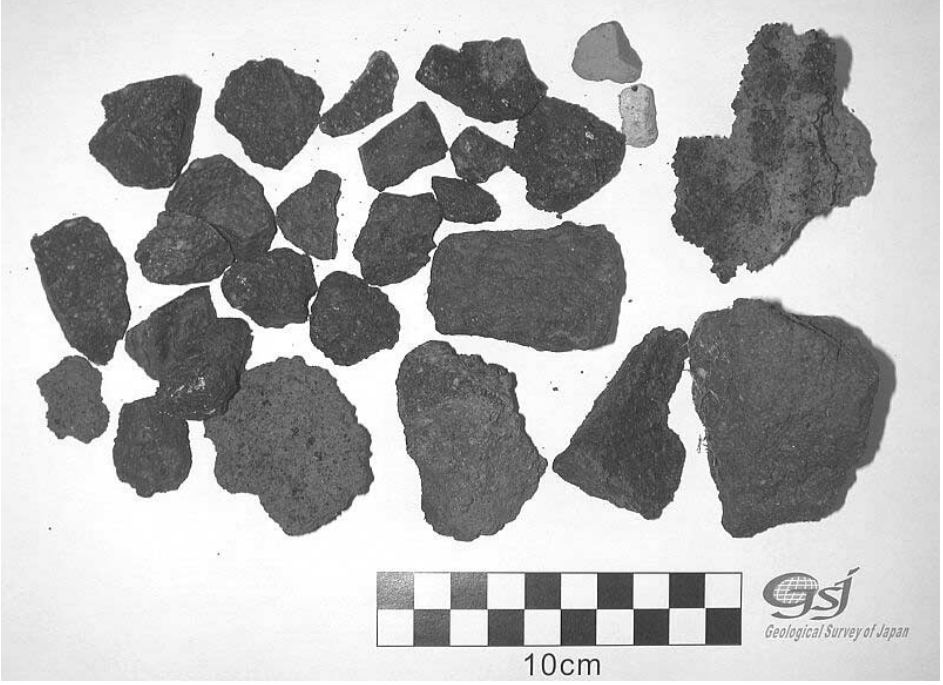



**写真１：2004年９月１日噴火で放出された火山礫．大部分は緻密～やや発泡した暗灰色岩片からなる．そのほか，少量の急冷縁をもち内部が発泡したパン皮構造をもつ火山礫（右上隅）や内部が軽石質のガラス質岩片（上端中央），灰白色変質岩（上端右よりの２個）などからなる．（群馬県吾妻郡嬬恋村浅間園南東2.5kmの駐車場にて９月２日採取）**

## 速報・2004年９月１日浅間山噴火速報

星住英夫・石塚吉浩（産業技術総合研究所）
吉本充宏・嶋野岳人（東京大学地震研究所）

2004年９月１日20時2分，浅間山は山頂火口から噴火した．噴火は大きな爆発音を伴い，赤熱した岩塊が火口周辺にちらばり山火事が起きる様子が報道された．また，北東方向に火山灰や火山礫が降下し，火山灰は風にのって福島県北部の相馬付近にまで到達した．

噴火の知らせを聞き，産総研と地震研では，噴出物の緊急調査を実施した．噴出物は，遠方では細粒火山灰，山麓地域では火山礫と火山灰からなる．岩塊（<64mm）は火口から北東側約４km地点にまで降下している．９月２日早朝からあいにくの雨となったが，火口から北東に４km離れた浅間白根火山ルート（有料道路）沿いでは，駐車場のアスファルトに上に砂利をまいたように，降下火砕物が散らばっていた（写真２）．降下した岩塊や火山礫は，緻密あるいはやや発泡したな暗灰色岩片が大部分で，少量の灰白色軽石やパン皮火山弾（～火山礫）などからなる（写真１）．暗灰色岩片の少なくとも一部は，火山弾と同質であり，きわめて新鮮である．そのうち大きなものは，落下地点でその直下の芝生を焦がしている．このように噴出物中には高温のマグマに由来するものが含まれている．

今回の噴火が単発のイベントなのか，さらに今後，噴火を繰り返す事態になるのかは，はっきりしない．今後とも活動状況を注意深く見守っていく必要がある．

なお，現地調査は継続して実施中である．産総研及び地震研では，下記ホームページにてこの浅間山噴火についての各種最新情報を掲載している．詳しくは下記を参照されたい．

産業技術総合研究所「浅間火山2004年噴火」
http://www.gsj.jp/kazan/asama/
東京大学地震研究所「2004年９月１日浅間山噴火」
http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/topics/ASAMA2004/

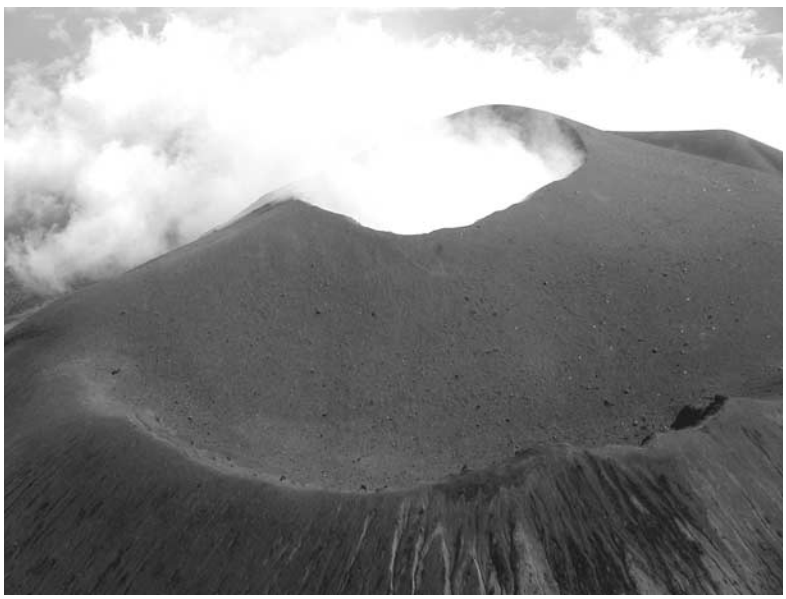


**写真２（上）：火口から北東に４kmはなれた，浅間園南東2.5kmの駐車場．降下火砕物の軸部にあたる．右奥の部分から清掃作業により除去されつつある（９月２日，嬬恋村浅間園南東2.5km**
**写真３（右）：西側からみた山頂火口．白色噴煙はすでに勢いが無く火山灰を含まない．火口周辺には多数の岩塊が散らばる．群馬県防災ヘリコプター「はるな」から星住撮影（９月３日）．**

## 高校地学教師の一つのイメージ

盛夏８月，滋賀県大津市にて地学系の大学教員，研究所の研究員，高校地学教員ほか13名が集まった．いずれも滋賀県立膳所（ぜぜ）高等学校の昭和20年代－40年代の卒業生である．集まりに参加できなかったが，この期間に同校を卒業し地学分野へ進学した者の総数はさらに多く，20有余名に及ぶ．そのうちの10名が現在，大学で地学系（地質学，地理学，地球物理学，地学史）教員として勤務している．昔も今も，大学への進学先として地学分野は全然メジャーではない．それにも関わらず，同校からの地学系人材，それもアカデミック志向の人材輩出率が高いことは，ある意味で特異な現象といえる．今流の表現を借りれば，まさにスーパー・アースサイエンス・ハイスクールである．これには明確な原因がある．地学系卒業生が集中する昭和20年代半ばから40年代末とは，一人の地学教員の同校における在任期間に他ならないからである．

その教員とは岡田節夫先生である．岡田先生は大正14年，岡山県井原市生まれ．京都大学理学部地質学鉱物学科を御卒業，大学院進学後，昭和25年に膳所高校に赴任され，以後24年間同校で教鞭をとられた．京都大学では松下　進先生の指導のもと舞鶴地域を研究され，先輩の中沢圭二氏と共著で「舞鶴帯」提唱の基礎となった研究（中沢・岡田，1949：鉱物と地質，３巻，２；中沢・岡田，1950，地質学雑誌，56巻，663）を残された．昭和49年に同校から転任され，３校の県立高校の校長を歴任された後，昭和61年に御退官された．その後，龍谷大学などの非常勤講師をされ，現在は悠々自適の生活を楽しんでおられる．

先生の授業はユニークで面白かった．特に直感的によく理解できる比喩にうまさがあった．生徒達はみな笑いながらも「あぁ，なるほど」と納得したものである．また授業の合間に発せられるちょっとしたコメントがユニークだった．卒業生達は単に地学の知識を学んだとは思っていない．好奇心の持ち方，勉強の意味，科学に対する姿勢などなど，むしろ地学を離れた一般的な教養を教えられたという印象が強い．例えば，「君たちは受験のために英語の勉強が重要と思いがちだが，国語のできないものに外国語が身につくはずがない．まずは沢山の本，それも小説より論説調の本を読め．」などという言葉は長く記憶に残っている．ゆえに地学以外の分野に進んだ卒業生の多くも強い影響を受けたにちがいない．

地学系卒業生達に，最も強烈な思い出として残っているのは，夏休みの１週間に及ぶ野外見学旅行であった．毎年夏休みに，１年生460名から希望者（筆者の年は約40名，多い時には120名）をつのり，関東山地および上信越まで遠征した．東海道線の大垣発の長距離夜行鈍行列車で早朝に東京に着き，その足で秩父長瀞の三波川変成岩を観察した．翌日からは軽井沢へ移動し，草津白根火山や火山活動史や草津温泉の水質／吾妻川の水質管理について学び，最後は浅間山の頂上まで登り，火山の迫力を目の当たりに感じた．何年か後に，浅間山は登山禁止になったが，そうでなくとも標高2500mの急傾斜の火山に高校１年生40名を引率するというのは並み大抵の所業ではない．万が一に備えて，京大・山岳部出身という同校の物理・化学の教員ほか３名によるバックアップ体勢がとられており，実際に誰も事故にあわなかった．

クラブ活動（物理・地学班）の指導も半端ではなかった．「液滴の研究」を始め数々のテーマで読売新聞社の学生科学賞を数年連続で受賞したのはほんの表面的な成果かもしれない．放課後のクラブ活動で，メンバーは大学教養課程の物理学基礎実験に近いものを高校時代に経験することができた．研究目的の設定，装置の準備，実際の実験，その後のデータの解釈／考察など，理系で必要となるミニマムの素養が自然と身についた．ここで鍛えられた卒業生の多くは，大学教養課程の基礎実験など楽勝だと思ったに違いない．

また教育の中身の他に，インフラ面での貢献も見逃してはならない．滋賀県立の普通科高校のほぼすべてには，理科の実験室として物理，化学，生物の他に地学の実験室が標準設置されており，さらに数校ではあるが天体観測室，気象観測室までもが設置されていたという実績がある．その実現に向けて岡田先生が大変尽力されたという話をこのたび伺った．これなど，もっと評価されてしかるべきことに思われる．

岡田先生からかくなる薫陶を受けたゆえに，卒業後30年あるいは40年もたってから学年が全く異なる弟子達が一堂に集まることになった．岡田スクール門下生同士の関係も，共同で仕事をする間柄から，互いの面識がないまま先生を介して噂だけを聞く程度までさまざまであったが，今回初めて先生を囲んで交歓できて，丁度先生が80歳になられる年に良い記念とすることができた．

さて，「先生を囲む会」は大変楽しい一時となったが，一方で，今回の集まりは高校地学教育の本質的要素とは何かを考え直すよい機会となった．岡田先生同様に熱意溢れる指導をされた高校地学教員は，かつて各地に沢山おられたと伺っている．従来，各地にあったこのような良質の高校地学教育については，せいぜい小さなコミュニティーの間で噂を聞く程度で，そのことが必ずしも広く認知されていなかったのではなかろうか？

そして，それらの良き伝統は今ではどのように引き継がれているのだろうか．最近の高校地学の先生方から伺うと，大学受験一辺倒の教育システムの中で，時間と規則に縛られ，思うような地学の授業ができない場合が多いらしい．しかし，受験戦争は昔もあったのではないか．欧米では，人類の存亡を問われる21世紀には地球科学が最も重要な研究分野になるという一般認識がある．これに対して，我が国では目先の利益に誘導されたバイオ，ITそしてナノテク重視の風潮に押されて，高校地学教育そしてバランスのよい理科教育全体が逆風にさらされている．そんな中にあって，かつての良き時代のパタンをそのまま再現するのは難しいとしても，今の時代に合った方法は必ずあるはずであろう．実際にはすでにそれを実践されている方々がおられて，これが筆者の杞憂にすぎないのであれば幸いである．

**膳所岡田スクール集合（2004年８月15日）．前列左から，佐倉保夫（千葉大・理; S40卒），波田重熙（元神戸大，神戸女子大; S34卒），岡田節夫先生，木下庸子（滋賀県立湖南振興局; S41卒），岡田浩二（膳所高; S50卒），但馬達雄（玉川高; S43卒），林田　明（同志社大・理工; S47卒），前島　渉（大阪市大・理; S45卒），吉倉紳一（高知大・理; S43卒），井元政二郎（防災科技研; S44卒），田村幹夫（水口高; S41卒），谷　伸（海上保安庁; S47卒），磯崎行雄（東京大・総合; S49卒），中島　健（守山高; S49卒）**

岡田先生が実践されたことから判断すると，高校地学（あるいは理科）教育の本質とは教員個々人の教養の高さとボランティア的なサービス精神につきるのではないだろうか．地学の個別の知識を教える以前に，その基礎となる物理学・化学・生物学をふまえた理科一般に共通の観察方法や思考方法を教えることが最も重要である．そのためにはまず教員自身がその資質を持ち合わせる，あるいは身につけるために不断の努力をする姿勢をもつことが不可欠となろう．かつての膳所高校の生徒達は，岡田先生から理科一般の知識とともに勉強・研究する人生のあり方を習い，それが人生の財産として残ったのだと思う．そして，ほんのちょっとだけ地球を相手にする面白さを見せてもらったというのが実態であった．少なくとも暗記科目としての地学はそこにはなかった．温故知新のヒントはこんな所にあるかもしれない．

（東京大学大学院総合文化研究科　**磯崎行雄**）

**掲載によせて**：磯崎行雄氏より原稿のご投稿をいただきました．私も理科教員として磯崎さんと同じように，地球科学を教えるものとして地学が総合科学としての体系を有している限り，物理，科学，生物の素養と科学の方法をもって惑星地球の歩みを解き明かし，これからの姿を予測していくことが必要だと思います．地球の成し遂げてきた自然界での階層的な営みと複合的な営みとの結果が今日の地球の姿をかもし出しているのだと考えるのです．今日の教育界，とりわけ理科教育をしっかりしたものにしていくためにも磯崎さんの投稿原稿は貴重であると思い，ここにご紹介させていただきました．またこれからの地学教育の振興のためにも会員諸氏の教育にかかわる投稿（随想，実践，体験，見分，ニュース等）をお願いする次第です．

（地学教育委員会　**阿部国広**）

## 院生コーナー

### Ocean Drilling Program（ODP）Leg 204 Post Cruise Meeting　参加報告

戸丸　仁
東京大学大学院理学系研究科
（現所属：University of Rochester）

2002年の７～８月にアメリカ，オレゴン沖のCascadia continental margin，Hydrate Ridgeで行われた，掘削調査ODP Leg204のPost Cruise Meeting（ポストクルーズミーティング）がスペイン，バルセロナのCentre Mediterrani d'Investigacions Marines i Ambientals（CMIMA）で2004年４月19～23日にかけて行われた．オレゴン沖で行われた調査にもかかわらずバルセロナでPost Cruise Meetingが行われたのは，Leg204中に乗船研究者の多数決で圧倒的な支持を得たためであり，その期待を裏切らず地中海に面したきれいな街で，内容盛りだくさんのミーティングが行われた．期間中はCMIMAに所属している女性の乗船研究者がホストとなり，19～21日に会議を，22～23日にピレネー山脈で野外巡検を行った．

ODPでは掘削調査が行われた約1年半後に，乗船研究者とサンプルリクエストをした陸上研究者が集まって今回のようなポストクルーズミーティングが行われる．調査後は論文や学会発表のアブストラクトの確認などのためにメールで連絡を取ることは頻繁にあったが，学会以外ではほとんど会う機会がなかったため，滞在先のホテルやCMIMAで実際にほかの研究者と久しぶりに会うと，調査中の苦労話から始まって，近況報告，今後の予定など話すことが尽きなかった．中にはバルセロナにつくなりサッカーの試合を見に行ってしまった，準備のいい研究者もいたが，私は同じ無機地球化学担当で乗船した研究者と研究の話題からそれぞれ勝手な人生相談まで，夜中まで話し込んだ．

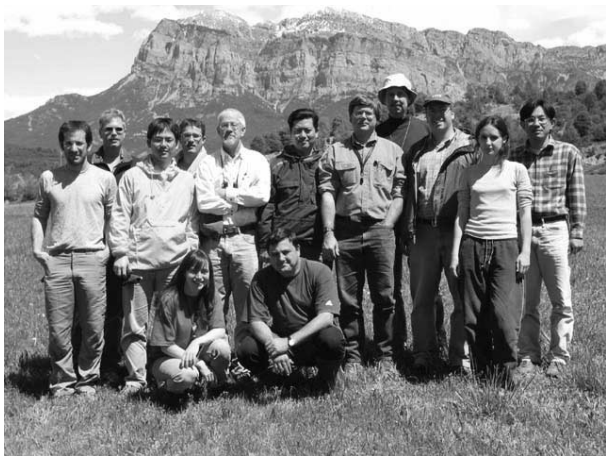
**地中海に面したCMIMA．ビーチのすぐ脇だけあってモダンな建物．**

**ミーティング後にCMIMAの前での記念撮影．**

Leg204はODPでは久しぶりのガスハイドレート調査であったため，世界中のガスハイドレート研究者が乗船，陸上研究を通してさまざまな形で関わっている．そのため今回のポストクルーズミーティングには今まで論文で名前を聞いたことしかなかったような著名な研究者も参加していた．ミーティング初日はわれわれだけでなくCMIMAの研究者も対象にして，航海の話のほかに，第一線の研究者たちがそれぞれの研究を発表した．ガスハイドレートの研究でも自分の専門分野から離れたアプローチをしている研究者の話を聞くと，そこからまた自分の研究にフィードバックされるものがあり，大変興味深かった．ガスハイドレートという比較的新しい対象の研究に，古くからある地質学的な研究手法でアプローチをする人もいれば，新しい考え，ツールを使って独自に話を展開する人もいて，最終的にどのような形で発表されるのか，非常に楽しみになった．

ポストクルーズミーティングの目的は研究内容の細かい議論よりも，最終的にどのような内容の論文を仕上げるのかを議論し，まとめることである．そのため，各研究者の発表もかなり突っ込んだ議論をしているものから，分析機器の写真とこれから始まる分析の予定を紹介するだけものまで発表内容もさまざまであった．発表は質疑応答も含めて一人15分程度が予定されていたが，それぞれの研究者が自分の研究の進捗状況に応じて一通り意見を述べていたため，当然のことながら，次第にタイトなスケジュールになっていった．ただ，休憩時間になれば，それぞれが集まってさらに突っ込んだ話をしたりと，ミーティングの当初の目的は場外を含めれば十分に果たされていたように思う．私自身も，間隙水の同位体分析を担当しており，分析自体は終わり，その解釈の段階でやや足踏みをしてい

**野外巡検．limestoneで出来た見張台から説明を受ける．**



**巡検参加者の記念撮影．後ろの山には不整合が．**

る状態での発表であったが，発表後に今まで連絡すら取ったことのなかった研究者からいくつかアドバイスされ，いい意味で仕事が増えた．

ミーティングの最終日には，発表終了後，それぞれが関係するグループごとに集まって，さらに細かく内容を打ち合わせ，問題点だけでなく，結果の公表方法，論文のタイトルなどについてまとめた．ほかのグループではどのくらい細かく打ち合わせたのか不明だが，私が参加した間隙水，地化学関係のグループでは，終始，ガスハイドレートを作るガスと水はどのような形態でその場に供給されたのかが話題となり，これに関しても結局，「それぞれのデータに基づいて議論されるテーマだろうから，それぞれが論文として発表してみれば」ということで落ち着いた（？）．CMIMAで行われたディスカッションはこれで終わり，あわただしく帰っていく人，せっかく来たバルセロナを堪能する人，巡検に参加する人に別れた．ガスハイドレート研究自体，それほど大きなコミュニティーではないが，あるひとつの地域に関して集中的にいろいろな研究を行ったグループが集まることというのは，めったにない機会であり，思っていたよりもあっさりした終わり方で，ミーティングの幕が引けてしまったのはちょっと残念な気がした．

巡検参加組はその後，タクシーで集合地点であるバルセロナ大学に向かい，巡検の案内をする人たちと合流し，3台の車に分乗し，ピレネー山脈の麓の町，Ainsaに向かった．調査地域であるAinsa basinとJaca basinはともにEoceneの浅海，もしくは沖積堆積物が発達したwedge-topの堆積体である．Anticlineの上にはこの近辺で見られるupper CretaceousからlowerEocenceのlimestoneを切り出して作った小さな見張台などがあり，そこからは周囲の地形とともに，まだ雪の残るピレネーの山々やその雪解け水の流れ込む湖などが一望でき，本来の目的の巡検のほかに観光まで十分に堪能できた．天気があまりよくなかったために，いろいろと予定を入れ替えての巡検であったが，予定されていた場所のほとんどを見て回ることができた．

ピレネー山脈形成に伴って発達した断層系の見学では，露頭スケールのものから，丘の上でぐるりと一回りして眺めるようなスケールのものまであり，周囲の褶曲地形とあわせて，まさに教科書的に地形の発達史がわかるようであった．また，巨大なturbidite channel fillやcalcite veinなど，ピレネー山脈南部地域におけるEoceneの海盆から沖積平野にわたる一連の地質変動をめぐる壮大なスケールの巡検で，こちらの分野に疎い私でも十分に楽しむことができた．一緒に巡検に参加した多国の研究者が，「これだけ盛りだくさんの巡検をしなくてはいけないなら，ポストクルーズミーティングを引き受けなくてよかった」とつぶやいていたほどであった．私にとってはミーティングの開催時期が非常に忙しいときに重なってしまったが，研究の上でも非常にプラスになったし，博士論文が終わったあとのちょっとした息抜きとしても充実した時間を過ごすことができた．また，航海中にお世話になり，これからもいろいろな場面でぶつかり合ったり，協力したりすることになるであろう，たくさんのガスハイドレート研究者たちと会えたことが何よりも楽しかった．

後は論文として結果を公表すれば一応ODPの義務としての研究は終わる．ひとつのLegが約2年半かけて終了することになる．これからはODPからIODPに変わり，研究者としてこのような国際的な大きなプロジェクトに関わることのできる機会が圧倒的に増えるはずである．このような調査に参加すると，確かに大きな仕事がひとつ増えるが，充分に時間をかけて調査から分析，報告まで各自責任を持って完了することの意義は大きいと思う．ようやく今年３月に博士号を取得し，一応院生コーナーにアドバイスできる立場になった（と勝手に自分で思っている）私としては，学生は少しでも興味があったり，貢献できるような調査があるなら，ODP（IODP）に限らず，どんどん参加してほしいと思う．苦労のネタ，話のネタになるだけでなく，人脈や経験という簡単には手にすることのできないものを得られる貴重な経験になるはずである．参加する回数には制限がないのだから，自分を出し惜しみしないで，どんどん参加してみてはどうだろうか．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

**t02h106@amail.shinshu-u.ac.jp　北沢俊幸（信州大）**
**akinori@eps.s.u-tokyo.ac.jp　髙橋昭紀（東京大）**
**microbe@hiroshima-u.ac.jp　白石史人（広島大）**
**f04j003d@mail.cc.niigata-u.ac.jo　梅津慶太（新潟大）**

## 院生（研究生）の方へ「院生割引申請」について

# 平成17年度（2005年）院生割引会費の受付開始

2001年より会費の院生割引制度が設けられています．定収のない院生（研究生）については，本人の申請により院生割引会費が適用されます．つきましては，次年度（平成17年度）の会費について申請受付を開始致しますので，該当される会員は下記の書式にて申請書を提出して下さい（郵送）．**会費請求書発行の都合もありますので，受付〆切は11月24日（水）と致します．〆切までに申請のない場合は，通常の正会員価格の請求となりますのでご注意下さい．なお，これまで（～2004年度）の会費についての申請受付は終了していますので，2005年度分からの申請のみ適用となります．**

**注意！！**
**毎年更新となりますので，今年度の割引を受けている方で，次年度も該当する方は改めて申請して下さい（来年３月まで院生（研究生）の方も申請すれば適用）．**

**送付先：〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6階**
**日本地質学会**

2005年度日本地質学会会費院生割引申請書

（新規・継続）

日本地質学会　御中

私は，運営細則第12条第1項（1）に基づき，会費の院生割引を申請いたします．

年　　月　　日現在

会員番号：

会員氏名：

所属：　　大学　　研究科

専攻　　前期・後期　　年在学中

上記，本学の学生につき，定収のない院生（研究生）であることを証明いたします．

指導教官（等）

所属：

氏名：　　印

**受付〆切　11月24日（水）**

追　悼

## 畏友　関根良弘君をおくる

本会名誉会員関根良弘君は，2004年５月24日，肺炎のため彼岸の人になりました．享年80歳でした．私は東京大学地質教室1946年卒の級友の一人として彼の逝去を悼みます．彼は第六高等学校でハイハードルの選手でしたので，小柄ながら均整のとれた体型とスマートな歩き方が美しい人でした．彼は論客揃いの我がクラスが論争して騒いでいるときにも，たゆむことなくすたすたと歩いていました．私たちは戦争の子でした．高等学校一年生のとき第二次大戦が勃発し，高校は半年短縮され，軍事教練と学徒動員にかり出されました．大学は二年の途中で，新潟県津川に疎開し，空腹を抱えてのろのろと空地にそばを植えました．1945年終戦の放送はそこで聞きました．本郷に帰って，1946年９月卒業しました．

大学では彼は鉱床学を選んで渡辺武雄教授の講座に入りました．卒業後，1949年助手に採用されました．若い頃彼は明延鉱山の銅・鉛・亜鉛・錫・タングステンの熱水性鉱床の成因に熱中しました．1950年すぎ不幸にも病魔に襲われ，長い闘病生活を送りました．夫人の献身的な看病のおかげで健康を回復しましたが，フィールドワークには多少の困難が予想されましたので，彼の関心は地殻における元素の存在度と濃集過程及び資源の有用性に進みました．金属資源を中心とした総合的・広域的な資源論・成因論が生涯的な研究テーマになりました．資源論は当時爆発的工業発展に燃えていた日本経済にとって重要な問題で，彼のテーマはその先駆的役割を果たしました．

1953年通産省地質調査所に移り，1958年西ドイツへ留学しました．1962年論文Miocene mineralizations in Japan as related to magmatism and geotectonicsによって理学博士になりました．地質調査所で鉱石課長・金属課長を歴任し，1971年金属鉱物探鉱促進事業団に転じ，調査部長を務めました．1978年から２年ブラジルで資源開発にあたったほか，欧州，中近東，アフリカ，中南米などに出張し，多くの国際会議に参加し，国際協力事業にも尽力しました．彼は該博な知識と豊かな国際経験に支えられて，彼本来のテーマを追求して，国内外及び世界の資源，特に金属資源の総合的研究に大きな業績を残しました．1980年高知大学で教鞭を執り，学生教育の他，学生部長など運営にも携わり，地域資源開発にも貢献し，1987年退官しました．

日本の地質学界においても，彼の業績と人柄は広く認められ，日本地質学会，日本鉱山地質学会，日本岩石鉱物鉱床学会，物理探鉱技術協会及び日本鉱物学会の評議員に選ばれ，後に，日本鉱山地質学会長に就任しました．

彼は，温厚，誠実，勤勉にしてまじめ，謙虚で，人を責めることのない人でした．彼の業績に共同研究が多く，共著や共同編纂の業績が著しいのも，その中心となった彼の人柄のせいでしょう．私たちの大学のクラス会もよく彼の世話に甘えました．酒をたしなまず，心優しくシャイな人柄が周囲の人びとの敬愛を集めていました．

ここに，日本の大動乱の時代を，自らの向学の志とスタンスを崩すことなく生き抜いた一人の地質学者に，晩年を病弱になられた奥様の介護にすべてを捧げた人に，心から平安の祈りを捧げます．

ご遺族は，夫人貞子様及び２人のご子息です．
ご住所：〒167-0052　東京都杉並区南荻窪２－17－３，

**（野沢　保）**

**10年程前，昔の疎開先津川でのクラス会を楽しむご夫妻**

# 「名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更カード」記載について

本カードは，全会員に提出していただきます．カードには，会員として登録されている（登録できる）基本項目を，すべて挙げてあります．各項目に修正や変更がありましたら，名簿掲載項目に関わらず，記入してお出しください．なお，会員名簿にはこれらの項目のうち，下記の名簿掲載項目（必須，選択）を載せます．選択項目については，個人の希望によりますので，必ず項目ごとに掲載の諾否をお示しください．

1．**名簿に必ず掲載する項目**：※印つき項目（氏名，所属（ない場合は掲載しない））
2．**名簿掲載を選択できる項目**：※印つき項目以外は掲載を選択できます．
**掲載を承諾する場合は，必ず選択項目の□欄に○を入れてください．**
**○印がない項目は掲載しません．**
3．名簿に掲載されない項目：会員番号，氏名ローマ字表記，生年月日，専門

この書式をコピーし，必要事項を記入して，郵送またはFaxで学会事務局まで返送してください．同様の書式であればEメールでも結構です．なお，ホームページ（会員専用ページ）から「名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更カード」をダウンロードできますのでご利用ください．

**送付先：日本地質学会事務局　FAX：03-5823-1156**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 会員番号 | （2004年　月　日届） | | | | |
| | 名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更カード | | | | |
| ローマ字表記 | | 生年月日 | 19　年　月　日 | | |
| ※　氏　名 | | 専門 | | | |
| □　出　身　校 | 学校　□　年卒・在学 | | | | |
| | 大学　学部　□　年卒・在学 | | | | |
| | 大学　□　修士課程　年修・在学 | | | | |
| | 大学　□　博士課程　年修・在学 | | | | |
| | 大学　研究生・聴講生・その他（　） | | | | |
| ※　所　属 | | | | | |
| □所属先部課名 | | | | | |
| □所属先住所 | □（TEL　-　-　．FAX　-　-　）<br>〒　代表・ダイヤルイン | | | | |
| □自　宅　住　所 | □（TEL　-　-　．FAX　-　-　）<br>〒 | | | | |
| □E-mail Address | 自宅または所属先のどちらかを登録してください． | | | | |

# 学　会　記　事

## 2004年度　第14回理事会議事録

期　日：2004年７月29日(木)13：00～18：15
場　所：地質学会事務所
出席：平会長，渡部常務理事，玉生副常務理事・運営財政部会-上砂，学研-徐・脇田，編出-狩野・宮下・会田，普教-公文・吉田，橋辺（事務局）
欠席：（委任）加藤副会長，木村副会長，天野・大友・伊藤・中井

**報　告**

**１．運営財政部会**（部会長-天野　副部会長-大友，上砂）

総務委員会（委員長―天野）

庶務関係（担当-天野）

・平成17年度東大海洋研究所白鳳丸，共同利用研究公募案内，応募〆切7/31→HP掲載
・平成17年度海洋研究船みらい，研究課題の募集，応募〆切7/31→HP掲載
・（社）大学婦人協会より第７回大学婦人協会守田科学研究奨励賞の募集案内，応募〆切11/30→HP掲載，News誌８月号掲載
・女性科学者に明るい未来の会より「猿橋賞」，「奨励賞」の募集案内，募集〆切11/30→HP掲載，News誌８月号掲載
・平成17年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞受賞候補者の推薦依頼（文部科学省の定めた推薦機関による推薦），推薦〆切8/31（意思決定機関の特段の事情がある場合には，理由を付して9/28まで）
・21世紀の地学教育を考える大阪フォーラム，子供のためのジオ・カーニバル企画委員会より「第４回子供のためのジオ・カーニバル」後援の依頼があり，例年通り承諾した．
・朝日新聞社より，第２回ジャパン・サイエンス＆エンジニアリングチャレンジ（JSCE2004）－高校生科学技術チャレンジ－（ISEF提携コンテスト）について後援依頼があり，承諾した．応募期間8/30-9/17，一次審査会10/2，二次審査会11/6，11/7，対象　全国の高校生，高等専門学校生（３年生まで）
・賛助会員役員変更挨拶：ジャパンエナジー㈱，日本技術開発㈱，
・賛助会員社名変更：鋼管鉱業㈱→JFEミネラル㈱に変更（川鉄鉱業と合併）
・関連学会役員変更挨拶：日本応用地質学会　会長　井上大栄（電力中央研究所），（社）日本原子力学会　会長　宅間正夫（日本原子力産業会議）
・（社）水環境学会より，第13回市民セミナー「大地の恵み，地下水・湧水の恩恵と将来」8/27開催の案内
・平成16年度三菱財団研究助成決定通知，地学関係なし．

会員関係（担当-上砂）

１）入退会の承認

入会

正会員［17］井尻　暁　内田昌男　小田耕市　笠原　豊　金子純二　川邉禎久　近藤久雄　田内久代　高尾晶彦　高山信紀　田口泰雄　泊　次郎　中西利典　中村典之　村田泰輔　山口耕生　Ratnayake Nalin

正（院生割引）［63］赤井一行　石竹美帆　五十公野貴弘　井上　淳　岩下享平　鵜飼恵美　内田良始　浦田紀子　大塚和彦　奥直樹　小野高明　片桐　啓　兼田　心　加納大道　叶内雅之　狩俣　薫　北野富人　熊谷太朗　小泉洋介　小溝　学　坂　秀憲　桜井健太　佐々木裕美　James Hunt　塩川晃司　芝原暁彦　渋谷典幸　駿河　仁　高塚哉子　高橋友啓　竹内一将　田中勝法　田中健一　田中真二　田山良一　丹　真紀子　丹尾貴志　塚本将康　辻本　彰　寺田亜紀　東郷　清　中尾武司　中村　匠　中村紀裕　奈良岡絵美　西嶋　圭　針金由美子　久島紘樹　白井亮久　平井建丸　平岡良崇　福井亜希子　藤原祐希　星出隆志　堀川英隆　森　良太　森木洋一　屋慶名啓介　山崎　聡　山田知成　横田崇輔　横山心一郎　吉田武生

準会員［10］奥村　学　加藤梨枝　佐藤暢史　白鳥達也　多田恭子　千葉悦子　辻智大　原田英明　渡辺　彩　渡邊貴央

退会（正14）：斎藤秀康，古川耕三，山下智士，江橋俊臣，丸山博之　ビチャイ　笹野景子，高田康秀，石田太一郎，簗浦進一，柳信一郎，蜷川清隆，石下洋平，近藤洋

逝去（正１）：田中　隆（帝石，7/23）

２）６月末現在会員数　賛助38，名誉72，正4641（内，院割191），学生33，合計4784名

３）会員名簿発行に関する会員アンケートについて，

雑誌６月号に掲載し，現在100枚くらいが返信されている．

関連学会連合（担当-天野）

・地質科学関連学協会連合
・自然史学会連合
・地理関連学会連合

会計関係（担当-大友・上砂）

・６月までの月例会計報告
・7/23会計委員会を開催し，下記のことが話し合われた．

１）法人化に向けた基本財産については，現状では不足しているので，今後も募金活動を進めていただきたいこと，９月総会までに，あるいは，法人化の見通しが経った段階で，予定金額に達していない場合，不足分は一般会計から補填することはやむを得ないものと考える．文科省の手続き等で法人化の許可が遅れた場合でも，今後の地質学会の運営および社会的責任を果たす目的での基本財産の確保は，必要不可欠なものとして，醵金者に返却するなどの措置はしないということを，会計委員会として確認した．

２）先の評議員会で事業年度と会計年度をいずれも３月末までとすることが提案され，総会を地球惑星合同大会などに合わせて開催することが了承された．会計委員会として決算手続き等について検討した結果，３月末で締めた場合，５月総会というのは技術的にたいへん困難であるとの大方の意見であった．総会に提出する決算報告書類が整うまでには，決算書の作成（１カ月半）→理事会承認→会計監査→会計報告書作成→（第３者確認）まで少なくとも３ヶ月はかかることが指摘された．とくに４月末から５月は連休が入るので，実働できる日数も少なく，理事会や監査の日程調整もたいへん難しいものと思われる．ちなみに，従前通り１月－12月の会計年度で，３月の総会であれば，事務処理や承認手続きも無理なくスムーズに行われるのではないか，との指摘もあった．

（→議題，その他へ）

３）地質学雑誌の印刷所（現在日本印刷）の契約が本年末で切れるので，８月中に例年にならって入札を行い，９月上旬に契約する予定．

・News誌の広告掲載について

代理店の廣業社から，広告スポンサー探しが非常に厳しく，約束のページとくに表Ⅱが埋まらない月がある，また，時には廣業社がサービス掲載をしている月もあるとの現状報告があった．今後，万一掲載がない月があるかも知れないが，広告収集に努力をしていただくことを要請した．

・会員名簿の広告についても，準備をする時期であるので，廣業社と交渉することにした．
・千葉大会のジュニアセッションの参加記念品は，先にフィールドノートを予定したが，参加人数などの関係で，名入シャープペンとし，学会のクリヤファイルに参加証を入れて渡すこと，また，拠金者へのお礼としてフィールドノートを差し

上げることを検討した．
・平成16年度科研費（570万円）の入金が7/23にあった

広報委員会（担当-大友）
ニュース誌編集小委員会（担当-大友）
・ニュース誌編集状況
7月号：(7/20校了・発送済み)
日本地質学会第111年総会　議事次第/地質災害シンポジウムの企画と参加要請/募金期間延長のお知らせ/案内3/各賞助成3/研連報告3/IGCPニュース2004/紹介3/新版地質図・報告書類1/お知らせ　最終間氷期の古気候・古環境変遷を高精度で解明するワークショップ/第4回ネパール地質会議参加報告/博物館だより　豊橋市自然史博物館/地学教育　千葉大会理科教員対象見学旅行　コース変更のお知らせ/院生コーナー学生・院生フェスティバル（通称学フェス）のご案内/追悼　坂本　亨博士の逝去を悼む(藤井昭二)
8月号：千葉大会プログラム　ほか

インターネット運営小委員会（委員長　渡部直喜，担当-大友）

2．学術研究部会（部会長-徐　副部会長-伊藤，脇田浩二）
行事委員会（徐委員長）
・千葉大会発表申し込み　7/14　〆切
〆切時点で例年より100件少なかったため，急遽15日の行事委員会において，19日の行事委員会まで，ポスター発表に限って申し込みを延長することを決め，会長の了承を得た．
・最終申込数は，一般発表565件（ポスター298，口頭267），シンポジウム発表40件
一般発表数が予想より少なめの理由として，web/pdfという登録方法の影響が大きい，今後改善すべきところは改善していきたい．
・各セッションの世話人による講演要旨の校閲の結果は，問題となるようなものはなかった．
・非会員の参加，特に特定のシンポジウムのみに参加したい場合の参加費について，7500円の参加費では，高くて参加しにくい，また，コンビーナーとしては非会員には呼びかけにくいとの意見が，行事委員の一部からあった．行事委員会として審議したが，千葉大会においての対応はなかなか難しいのではないか，今後のこととして考える余地はあるなどの意見があった．(→議題へ)
・総会を合同大会の機会に開催する可能性について（木村副会長よりの報告）
会計決算との兼ね合いとなる．3月決算で5月総会に間に合わせることは物理的に無理なので，合同大会を6月に移行できるか否か打診する必要がある．
来年の場合，5/22の昼（1.5ないし2時間程度）なら可能である，同日は地学教育関係のシンポジウム参加者は無料であるので，同様の措置ができる．会場は同シンポジウムの室で300人程度，室料は時間に応じて負担．
・ポスター賞の受賞者枠を増やす．18日のみポスター賞授与は総会後に行うこととする．

専門部会連絡委員会

国際交流委員会（委員長-脇田浩二）
・CCOP（東・東南アジア地球科学計画調整委員会）年次総会開催，第1回実行委員会報告
7/14，産総研臨海副都心センターにおいて開催され，代理として橋辺が出席した．
＊千葉大会において実行委員会によるCCOPのランチョンが開催される．
・IYPE第1回実行委員会議事録
会長，会長代行，顧問，副会長，実行委員，事務局長を決定した．すでに顧問には地球物理関連の学術会議会員にも参加していただいているが，今後は，地球物理関連の学会にも参加を呼びかけていく．12月はじめ頃に，キックオフのミーティングを開催する予定．
News誌にIYPEの記事を掲載，その後，ロゴマークを掲載するようにすること．

環境地質研究委員会（委員会長-羽田　忍）
ヒマラヤ地質研究委員会（委員長-在田一則）
地質学と地震研究委員会（委員長-嶋本利彦）
南極地質研究委員会（委員長-廣井美邦）
地質環境の長期安定性に関する委員会（委員長-高橋正樹）

3．編集出版部会（部会長-狩野　副部会長-宮下，会田）
地質学雑誌編集委員会（委員長-狩野　副委員長-宮下）
・今月の編集状況は以下の通りです．（7月20日現在）
110-7：論説4・口絵1・（7/20校了・発送済み）
110-8：論説3・短報1・口絵1（入稿中）
本年度投稿論文数54編［論説42編（和文42）総説1，短報6（和文5　欧文1），ノート4，討論1］口絵9（和文4　欧文5）
投稿数昨年比　＋2
査読中　50編
・特集号の編集状況（飛騨特集号は早くて9月号，遅れると10月号となり，もうひとつのヒマラヤ・モンスーン特集号は来年1月号の予定）
・ノートのページ超過（画像処理に関するテクニカルノートで，5ページを超えることとなった．ページ超過の理由を付けて掲載することで承認された）
・J-STAGE公開について
科学技術振興機構の担当者に来てもらい，おおよその手続きの概要について説明を受けた．今からであれば来年早々からの公開を期して準備をすることになる．今後具体的に担当者と打ち合わせる．7月29日に担当者と面談し，具体的なレイアウトなどについて打ち合わせた．印刷公開後，何ヵ月後にpdfファイルとして公開するかは，3ヶ月後とする．ノートなどにも，今後，アブストラクトやキーワードをつけることを要望する．

The Island arc 編集委員会（事務局　渡部）

企画出版委員会（担当理事　吉田）
・「一般教養向け地学副読本」作成プロジェクトの立ち上げについての提案（→議題，その他へ）
【提案の概要】（天野理事経由）
1．提案者：原田憲一（京都造形芸術大）
2．提案の趣旨：中学生，高校生，一般教養教育向けの副読本を作成する．天文学や地理学分野までも含めて，地球を総合的にあつかったものを編集する．図や写真としてまとめる（一種の図集）．
3．計画：企画・編集には，教員，大学人，コンサルタント等様々な階層の方に参加してもらって，徹底的に内容を検討してユニークな副読本とする．そのために，関係者による合宿等も行う．期間としては4～5年を考えている．
4．資金：文科省の科研費を申請する．
5．出版：出版社から（天野意見）
本提案について，理事会で了解が得られたので，原田さんに具体的な提案内容の提出を依頼することとした．本企画に関して以下のような意見があった．カラーで判りやすい図表を集めると良い．学会がお墨付きを与える（学会として責任をもつ）ことと学会活動を広く普及していく両面を考慮する必要がある．
The Island arc 連絡調整委員会（担当理事会田）
・平成15年度科研費（520万円）確定通知あり，16年度科研費570万円は入金．

4．普及教育事業部会（部会長-公文　副部会長-中井睦美，吉田武義）
学校教育委員会（委員長-阿部）
・「小さなEarth Scientistのつどい」千葉大会への申し込みは10校，発表数約29件，参加者数150名程度．
・当初考えていたより参加人数が多くなりそう，また，来年以降も増える可能性があるとのことから，参加賞（記念品）については，もう一度検討する必要がある．委員会としては安価な名入りのシャープ

ペンシルなどを全員に配ることでよいとの判断をしている．
・7/20委員会開催
新「地学教育委員会」の委員会規約案を作成．（資料参照#→議題へ）
・千葉大会関連行事「理科教員対象見学旅行」および「小さなEarth Scientistのつどいにたいし，千葉県教育委員会から後援承諾の返事があった．終了後は実績報告書を提出することとなる．

生涯教育委員会（委員長-柴）
地質基準委員会（委員長-新妻）
地層名委員会（委員長-天野）

5．その他―1
支部長連絡会議（担当理事　玉生）
・支部規約モデル案（公文試案2検討案）
支部規約には支部費のことは記述せず，運営細則の方に交付金を配布する旨を明記する方が良い．来春を目途に支部長の意見をもとに，まとめることとする．

地質災害委員会（担当理事　玉生）
・6/26災害地質委員会議事録
・福井県豪雨災害調査報告，HPへの掲載など．
新潟大学の高浜さんと福井大学の服部さんに，速報を依頼する．来週一杯に原稿が用意できれば，8月号のnews誌に掲載することとする．千葉大会でパネル展を開くことも検討．

JABEE委員会（委員長―天野）
・第2回「地球・資源分野運営委員会」報告
7月20日（火）に東京大学システム工学専攻会議室において，上記委員会が開催され，地質学会からはJABEE委員長の天野が出席した．主に検討された事項は下記の通り．
1．2004年度の審査に向けた準備が進められている．今後，8月末までオブザーバの募集を行う予定である．
2．JABEEに関するコンサルティング・講演会について検討を行った．
3．地球・資源審査員研修会の開催について検討し，9/11（土）に，早大・理工にて開催することとした．プログラムは昨年度とほぼ同様の内容とする．
4．「JABEE審査の要点（第3版，2004年度版）」の改訂について検討した．
5．大学院プログラムの認定について，JABEEのWGでの議論の経緯が説明され，それに関して意見交換がなされた．
6．「地球・資源分野別要件－補足説明－」の改訂について検討した．特に，JABEEへの提出書類に関する変更にともなう改訂に関して中心的に意見交換した．
7．海外オブザーバをカナダに派遣することとした．
・「学術の動向」掲載の千木良雅弘氏の報告（昨年末のシンポジウム報告中心に）を地質学会News（8号）に転載することとし，著者および学術協力財団の許可を得た．

技術者継続教育委員会（PDE）（委員長―公文）
・PDE協議会委員会会費16年度分（10万円）の分担金として，幹事の応用地質学会から1.5万円の請求があり支払った．

【以下，評議員会の下の委員会】
各賞選考委員会（委員長-新井田清信）
名誉会員推薦委員会（委員長-加藤副会長）
科研費委員会（委員長-竹内　章）
学術会議連絡委員会（委員長-井内）
地学教育研究委員会（委員長-佐瀬）
女性地球科学者の未来を考える委員会（委員長-田崎）
研究企画委員会（委員長-　）

法人化準備委員会（委員長-木村　学，幹事委員　立石，担当理事：渡部・玉生）
・6/29　付けの文科省から現状の説明についてい，今後の見通しについて．
・募金委員会報告
7月23月現在の募金総額11,987,850円（これにより基本財産額は約1500万円となる）
先の評議員会において，拠金者に対する何らかのお礼を要請する意見があった件について，検討したい．（→議題へ）

法務委員会（委員長　上砂）
・7月6日に以下の内容で委員会を開催した．
1）2004年度第12回理事会で行事委員会から申し入れのあった，支部等の出版物についての著作権に関する手続きと学会等の発表，ポスターなどのカメラ，ビデオによる撮影等，取材について．
取材者からの申し入れがあった場合，行事委員会が対応する．会場での写真撮影等については，会場内の貼り紙，ならびに講演要旨等に掲載して注意を促す．
2）2004年度第4回定例評議員会で議論された関東支部主催の学部学生，社会人を対象とした第1回フィールドキャンプ参加者の安全面を含めた実施要領等の整備に関する事項について．
参加資格に関する表現で，「2回以上の地質巡検・野外実習・・・」の2回は2単位にしたほうが良い．安全対策上，このような縛りが必要である．新潟のJABEE講習の経験例も参考になると思われる．

倫理規定策定委員会（委員長-松本　良，担当理事　伊藤）
オンライン化委員会（委員長　鈴木）
地質学雑誌のありかた検討委員会
選挙管理委員会（委員長　手塚裕樹　担当理事　天野）

**○議　題**
1．総会議案について：議案説明原稿の作成要点および確認
7月号News誌に総会次第を掲載した．議案の説明については，8月号に掲載する予定．
審議事項　1）会則の整備変更について
・総会の開催時期変更に伴う会則の改正
＜会則＞
第30条　通常総会は，毎年9月に会長が招集する．
→通常総会は，毎年事業年度終了後3ヶ月以内に会長が招集する．
第44条　この学会の事業年度は，毎年1月1日に始まり，12月末日に終わる．
→この学会の事業年度は，毎年4月1日に始まり，翌年3月末日に終わる．

・事業（会計）年度の変更に伴う会則および運営細則の改正
＜運営細則＞
第12条　本会会費の年額（1月～12月）を次のように定める．
→本会会費の年額（4月～翌年3月）を次のように定める．

審議事項　2）2005年度暫定（1月～総会），2005年度本年（総会～06年3月）事業計画案，および予算案について
・事業年度変更にともなう事業計画および予算措置について．
とりあえず9月の総会に2005年度暫定（1月～3月）の事業計画および予算をだす．
2005年度本年（4月～06年3月）事業計画案，および予算案は，春の総会でも良いか？　　最終的に2005年度事業および会計は2005年1月～2006年3月までを1年度とする？
・会計年度変更に伴う会費の徴収について．
05年1月～3月分として，会費額の1/4を05年4月から06年3月までの会費に加えて請求することとする．
審議事項　4）法人化についての「決議」
・法人化することの会員の意思確認をし，状況に関わらず法人化することを決定する．提案理由を，渡部常務理事が作成することとした．

2．総会開催月の変更にともなう事柄
1）役員の交代
総会から総会までとなるので任期が2－3ヶ月延びることとなる．
2）来年度からの評議員会の開催月の検討
現状　1回目　9月（総会直後），2回目　12月，3回目　3月，4回目　6月，5

回目　9月（総会直前）
改正案：1回目　5～6月（総会直前），2回目　9月年会時，3回目　3月，4回目　5～6月（総会直後）
運営細則21条の改正案：5回→4回

移行期の評議員会開催予定（案）
04年総会以降　1回目　04年9月，2回目　04年12月，3回目05年3月，4回目05年5月（総会直前），05年総会以降，5回目　05年5月(役員の新旧交代なし，開催？)，6回目　05年9月，7回目06年3月，8回目06年5月

3）各賞授賞に関する件
移行措置等の検討
論文賞等の論文の対象期間はこれまでと同様の暦年区切りとすることで，継続上の問題はない．各賞委員の選出は，05年度は第1回9月の評議員会で行う．新選考委員会による選考は05年1月から始まり，05年5月の4回目の評議員会で決定し，総会に報告する．表彰は総会ではなく，9月の年会時に行う．名誉会員証の授与，
50年顕彰会員の顕彰も同様とする．

4）2004年度決算見込み案および2005年度暫定予算案について
2004年度は12月末で決算し，2005年度は1月～2006年3月までを1年度とする．ただし，1月-総会までは暫定予算とし，2004年度の決算報告および2005年度の事業計画・予算は来年5月総会にはかることとする．

5）来年度の総会開催について
（木村副会長報告）
前回の理事会での確認に従い，来年5月の総会開催について，5月22日昼（合同大会初日：日曜日）の地質学会総会開催の可能性，総会のみ参加代議員の大会参加費用問題について，合同大会浜野運営機構長に打診．
1．22日は，午前から午後にかけて，地学教育関係のシンポジウム（今年度は200名ほど参加）が予定されているが，その同じ会場で，昼休み1時間半ないし2時間程度なら可能であること（300名収容会場）．
2．地質学会総会のみの参加者は，教育関係シンポのみの参加者と同様，無料にできること．
3．会議場借用経費は時間に応じて，学会が負担していただきたい．
これらは，先に理事会で出された，条件に関する事柄が全て認められている．
理事会で承認後，正式に申し込みたい．仮押さえは，7/24に開かれる，「合同大会連携のあり方，検討会」の時にしておきたい．
上記の状況を踏まえて，理事会としては来年の総会を，地球惑星関連学会合同大会開催時の5月22日昼に開催することとした．

3．非会員の参加費，特に特定のシンポジウムのみに参加したい場合の参加費について
1日参加費を設定しても，全日参加費とあまり金額的に変わらないこと，会員との関係，および手続きが煩雑になることなどを考慮して，特にこれに対応する措置はとらないこととした．

4．新「地学教育委員会」の規約について
他の委員会の規約フォーマットを参照して，体裁を整えることとする．発効日付は7月29日付とする．

5．募金拠金者に対するお礼の検討
募金拠金者に対して，募金目標額の達成時，法人化の設立総会時などに何らかの形でお礼する方法を，今後，検討していくこととした．

6．学会員のメーリングリストについて
会員のメールアドレスを整備してHPの更新や緊急時の連絡に活用できるように取り組む．配信希望者が自動的に登録できるようなシステムをHP上に作って，登録するよう宣伝する．

7．合同大会への対応について（平会長，木村副会長）
・合同大会登録者の中の地質学会会員数：1380名，合同大会全体の登録者は7500名程度（いずれも5日間の延べ人数），その2割弱は，地質学会会員が占めていることになる．現在20学会が，共催，協賛で参加している．
・以下に合同大会で総会を開くにあたっての，参考資料．
地質学会代議員＋理事（計200名中；合同大会登録者数140名，合同大会未登録者数60名）未登録者数60名内訳（会社18名，教員および博物館16名，大学22名，その他4名）大学関係での未登録者はほとんど，古生物関係のよう．
・その後の情報，古生物学会が合同大会への合流を決定．また，総会当日の5月22日は，地学教育関係のシンポジウムですので，教員関係代議員に取っては大きなメリットがある．応用地質学会等はすでに，協賛学会となっており，会社関係の参加でメリットのあるようなセッションや企画がされると，会社関係の人の合同大会への参加が促される．
・合同大会再編もにらんで，春と秋の戦略的配置をしっかりと定めることが大事．
・平会長から，問題の背景について説明あり．地質関連学会に声をかけて，合同大会再編に対するスタンスを相談する機会を作ってみてはどうか？　AOGS（アジア・オセアニア地球科学会）との関連，国立情報学研究所電子図書館（NACSIS-ELS）との関連等を考慮する必要がある．国際情報発信やアジアとの共同も考慮する必要がある．現在，合同大会関係学会では学会ユニオン化の話を進めている．個々の学会の役割とはことなる大きな傘をかぶせた外向けの活動を共同で行っていこうと言う趣旨で，話し合いが行われた．有識者をたてて，意見交換してはどうか．どなたかにコーディネーターをお願いしてやっていけないか．会長，副会長をヘッドにして，脇田さん，吉田さん，徐さんにコーディネーターになってもらって，今後取り組んでいくこととした．

8．その他
8月中旬までに評議員会議題を固める．総会資料は8月末までに．

## 2004年度　第15回理事会（臨時）議事録

期　日：2004年8月12日(木)17：00～19：20
場　所：地質学会事務所
出席：平会長，加藤副会長，木村副会長，天野，中井，玉生，徐，脇田，宮下，会田，公文
欠席：渡部，上砂，狩野，吉田，大友，伊藤

**報告事項**
1．千葉大会は参加者が1200名以上にならないと，財政的に赤字になる．是非，身近な方に参加を呼びかけてほしい．
2．緊急展示に関する発表内容のチェックは法務委員会で行う予定．
3．京都大会の準備に取りかかった．来年9月に旧教養部で実施する．

**審議事項**
1．総会議案　審議事項4）の文案について検討し，重複部等を一部修正した．
2．日本地球惑星科学連合（仮称）」設立準備会への対応について，自由討論を行った後，以下の事項を決定した．
1）設立準備会へ積極的に参加する．具体的対応は理事会が行う．
・準備委員：木村，脇田
2）地球惑星科学の連携の動きをふまえ，理事会が主体となり関連学協会と連携し，学術総合雑誌（Island Arc）のあり方，地球惑星科学における地質科学の役割などについて，幅広い検討を行う．
・関連学協会との連携検討WGの設置（担当：斎藤・天野・玉生）
3）地質学会の法人化後の長期的展望について，評議員会のもとで議論を開始することを提案する．

＜渡部コメント：会議後＞
「Island Arc」の意義付けが多少なりとも重要なポイントであれば，現在の編集委員長のいずれかをWGでの検討に参加頂いてはどうか

## 出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．
現金書留または郵便振替　00140－8－28067
No. 38以前の論集：院生・学生は4割引，正会員は2割引　No. 40以降の論集：院生・学生のみ2割引

### 地 質 学 論 集

第21号　続・日本列島の基盤．加納　博ほか編，331pp., 1982年4月刊，会員頒価2,400円，〒340円
第26号　白亜系の国際対比―現状と問題．平野弘道編，172pp., 1985年3月刊，会員頒価2,000円，〒290円
第30号　日本の第四紀層の層序区分とその国際対比．市原　実ほか編，221pp., 1988年4月刊，会員頒価2,000円，〒340円
第33号　西南日本内帯高圧変成帯とテクトニクス．西村祐二郎ほか編，357pp., 1989年4月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第34号　堆積盆地と褶曲構造―形成機構とその実験的研究―．三梨　ほか編，209pp., 1990年3月刊，会員頒価2,500円，〒340円
第37号　古日本海東縁の新第三系―層序・古地理・古環境．小林巌雄ほか編，326pp., 1992年3月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第38号　変動帯における砕岩類の組成と起源―日本列島を例として―．君波和雄ほか編，401pp., 1992年3月刊，会員頒価3,500円，〒340円
第40号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒340円
第41号　中部九州後期新生代の地溝．長谷義隆ほか編，192pp., 1993年6月刊，会員頒価3,100円，〒290円
第42号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年4月刊，会員頒価3,100円，〒340円
第43号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年4月刊，会員頒価2,000円，〒340円
第44号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒340円
第45号　~~シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，249pp., 1995年8月刊，会員頒価2,500円，〒340円~~（売り切れました）
第46号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年9月刊，会員頒価1,900円，〒290円
第47号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年4月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第48号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia（IGCP350）Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188pp.，1997年6月刊，会員頒価2,100円，〒340円
第49号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年3月刊，会員頒価2,500円，〒340円
第50号　構造地質　特別号―21世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263pp.，1998年7月刊，会員頒価2,500円，〒340円
第51号　地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162pp.，1998年3月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第52号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー10pp.，1999年9月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第53号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒450円．
第54号　タフォノミーと堆積過程―化石層からの情報解読―小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．（入荷しました）
第55号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，221pp.，2000年1月刊，会員頒価2,800円，〒340円．~~（売り切れました）
第56号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年3月刊，会員頒価2,900円，〒340円．
第57号　砕砕岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年9月刊，会員頒価2,800円，〒340円．

リーフレットシリーズ
大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―　1995年4月発行　会員価格200円（非会員300円）
大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo－Poollututions 1997年2月発行　会員価格200円（非会員300円）
大地をめぐる水―水環境と地質環境―　2001年5月発行　会員価格300円（非会員400円）

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）1枚200円（非会員300円）

講演要旨集ほか
第109年学術大会講演要旨集（2002年9月刊，新潟）会員頒価3,500円，〒500円
第110年学術大会講演要旨集（2003年9月刊，静岡）会員頒価3,500円，〒500円
第110年見学旅行案内書（2003年9月刊，静岡）　会員頒価1,500円，〒350円
（静岡大会セット購入の場合送料実費請求）

クリアファイル：学会オリジナル．A4版透明タイプ　会員頒価　1枚100円
フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価1冊500円．

（金融機関・郵便局用）　　平成　　年　　月　　日

# 預金口座振替依頼書
# 自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

| 収納代行会社 | SMBCファイナンスサービス株式会社<br>（旧株式会社三井ファイナンスサービス） | 振替日 | 6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日） |
|---|---|---|---|

| （フリガナ）<br>申込人名 | | 申込人住所 | 〒<br>☎ |
|---|---|---|---|

民間金融機関または郵便局のうちどちらか一つをご指定ください。

民間金融機関用 捨印

**民間金融機関**

| 金融機関コード | | 支店コード | | 預金種目（どちらかに○印） | 口座番号（右詰めでご記入ください。） |
|---|---|---|---|---|---|
| 銀行 信用金庫 組合 | | 本店 支店 出張所 | | 1. 普通<br>2. 当座 | |
| （フリガナ）<br>口座名義人 | 法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。 | | | 金融機関お届け印 | 印 |

**郵便局**

| （フリガナ）<br>口座名義人 | 法人の場合は、郵便局へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。 | 郵便局お届け印 | 印 |
|---|---|---|---|

| 種目コード | 契約種別コード | 通帳記号 | 通帳番号（右詰めでご記入ください。） |
|---|---|---|---|
| 166 | 30 | 1　　0 の | |

| 払込先口座番号 | 00110－5－58830 | 払込先加入者名 | SMBCファイナンスサービス株式会社 |
|---|---|---|---|

ご注意！ お通帳でご確認ください 金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

| 収納企業名 | 日本地質学会 | 料金等の種類 | 会費等 |
|---|---|---|---|
| 契約者番号 | 委託者コード 1847600 | 顧客コード 00000 | |

－預金口座振替規定－　※郵便局払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

| 金融機関使用欄 | （不備返却事由）<br>1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違<br>2. 記載事項等相違<br>店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義<br>4. その他（　　） | | |
|---|---|---|---|
| | 備考 | | |
| | 検印 | 印鑑照合 | 受付印 |

受付日時印

（民間金融機関・郵便局へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱　〒160-8440
東京都新宿区新宿 2-16-6　☎03-5362-2856

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

80円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八—一五　井桁ビル内

日本地質学会

御中

オリ線

住所

氏名

オリ線

裏面のりしろ③

キリトリ線

裏面のりしろ②

研究室のミニ工場

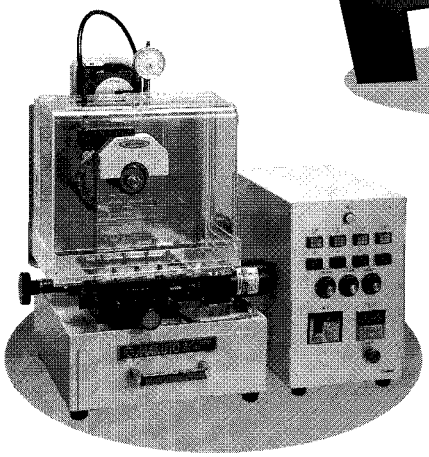
# マルトーの ラボ・ファクトリープラン 3点セット

分析・検査用試料作製機器
〈切断・研削・研磨〉

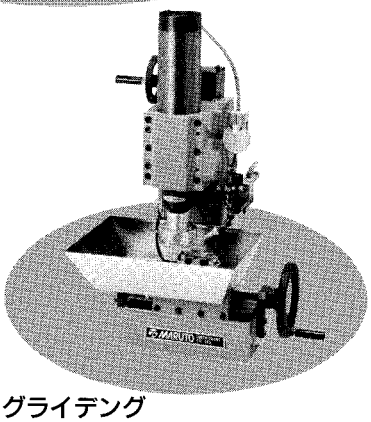
小さな機械(なり)だが役に立つ

小型 精密 操作簡単 低価格

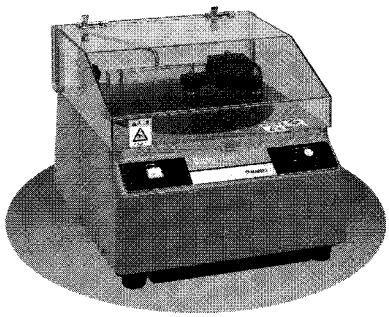
3機種揃えば、各種試料の精密加工が可能です。
(ガラス・水晶・シリコン・セラミックス・鉱物・金属材料などの加工)



カッティング
連続・浅切込みができる
## ステップカッター
〔MC-170Y〕
- 試料へのダメージが少ない
- 最小切込み量 10μm／pass
- 最大加工能力 H25×L40mm
- 設置面積 W550×L450mm
- 本体価格 185万円～



グライデング
立軸平面研削機
## プレパラップ
(MG-300)
- 最小切込量は、0.01mm目盛
- 加工サイズは、MAXφ50mm
- 任意研削面の逐次観察が可能
- 研削・研磨、同一治具使用により、研削・研磨工程は簡単で高精度
- 設置面積 W560×L380×H640mm
- 本体価格 98万円～



ポリッシング
精密鏡面研磨機
## ドクターラップ
〔ML-180〕
- 組織検査用試料のラッピング・ポリシング
- アクセサリー豊富
- 研磨試料サイズ φ1～φ100mm
- 設置面積 W400×L400mm
- 本体価格 45万円～

☆貴重な試料を無駄なく手軽に加工したい、各種カタログあります。開放実験室でテスト加工が可能です。

材料を切る・削る・磨くそして測る技術で奉仕する

株式会社マルトー

本　社／〒113-0034 東京都文京区湯島 1-1-10
☎東京(03)3251-0727(代表) FAX:東京(03)3251-2478
福岡連絡事務所／〒815-0033 福岡市南区大橋 1-21-5 岩田ビル
☎福岡(092)512-2755 FAX:福岡(092)561-4288

E-mail:maruto@maruto.com http://www.maruto.com

写真 2　前掛山西斜面付近

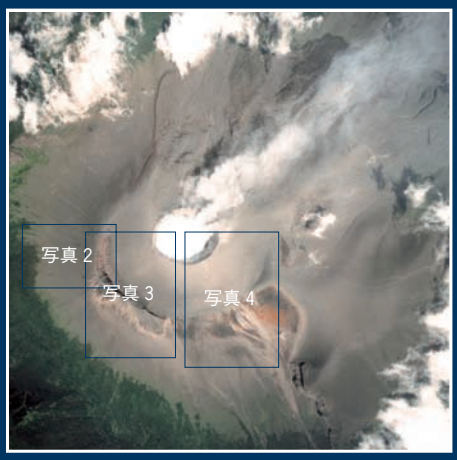


写真 3　釜山火口南西付近

写真 4　釜山火口南東付近

## 2004年　浅間山噴火

### 垂直写真　2004年 9 月 3 日撮影

（写真提供：アジア航測（株））

表紙紹介およびp.15関連特集記事参照

©日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp